

佐久市・小諸市

外国人介護職員の活躍事例集

福祉・介護のつばさ事業

佐久市 高齢者福祉課
小諸市 高齢福祉課

はじめに

佐久市・小諸市では、令和元年度～令和3年度において、
佐久地域の中核産業である「福祉・介護」の持続的な発展のため、
「アジア健康構想」に基づく「福祉・介護のつばさ事業」を展開してまいりました。

本事例集では、佐久市・小諸市において、先行して外国人介護職員を
受け入れている事業所・法人のさまざまな取り組み事例を紹介しています。
今後ますます活躍が期待される外国人介護職員の受入れにおいて、本事例集が
参考となれば幸いです。

また、介護現場を支える外国人介護職員について一人でも多くの地域の皆様にご理解頂けますことを願っております。

※本誌の掲載情報は、令和4年3月31日時点のものです。

なお、佐久市・小諸市の外国人材を受入れている全ての事業所が掲載されているわけではありません。

目 次

<事業所>

技能実習制度

介護型軽費老人ホームケアハウスのぞみ	1
地域密着型特別養護老人ホームのぞみの郷	2
介護老人保健施設 愛の郷	4
特別養護老人ホーム 佐久平愛の郷	6
小規模多機能あったかほーむ中込	8
デイサービスセンター布施屋・ショートステイ布施屋	10
認知症対応型共同生活介護のぞみの家	12

EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者

介護老人保健施設 安寿苑	14
特別養護老人ホーム 佐久福寿園	16

特定技能

小規模多機能型居宅介護事業所さんびあの家	18
----------------------	----

留学生

学校法人佐久学園 佐久大学	20
---------------	----

<法 人>

社会福祉法人 佐久平福祉会	22
エフビー介護サービス株式会社	24
のぞみグループ	26
社会福祉法人 佐久福寿園	28
社会医療法人 恵仁会	30
社会福祉法人 望月悠玄福祉会	32
外国人介護職員の受入れに関する相談先一覧	34

介護型軽費老人ホーム ケアハウスのぞみ のぞみ

社会福祉法人 のぞみ福祉会



外国人 技能実習 制度

介護型軽費老人ホーム
ケアハウスのぞみ

〒384-0093
長野県小諸市和田 966-151
TEL:0267-25-1161
FAX:0267-25-1162
URL:<http://www.nozomi-g.co.jp/>

介護サービス

特定施設入居者生活介護
小規模多機能型居宅介護

職員体制（職員数）

介護職員：21名

外国人介護職員

インドネシア 7名(技能実習生)



～ロリタさんとウスワテュンさんから代表でお話を聞きました！～

日本で介護の仕事を選んだ理由は？

高校生の頃に日本語の授業があり、日本に興味を持っていました。大学卒業後は助産師として働いていましたが、いつか日本で働いてみたいという夢があり、対人援助職としてのこれまでの経験を活かし、日本の介護の仕事を選びました。（ウスワテュンさん）大学生の頃に Facebook を通して日本の事を知り、日本文化が大好きになりました。大好きな日本での職業経験が欲しかった為、この仕事を選びました。今は大正琴も習っていて、施設の行事などで披露することもあります。（ロリタさん）

将来の夢や目標は？

日本の介護福祉士になり、今後も介護の仕事で頑張りたいです。（2人）いずれはインドネシアに介護学校を作りたいと思っています。（ウスワテュンさん）いつか日本人と結婚して永住したいです（ロリタさん）

日本で行ってみたい所は？

奈良県に行ってみたいです。（ロリタさん）

仕事のやりがいや嬉しかったことは？

入居者様のお役に立てることが嬉しいです。入居者様から「ありがとう」と声をかけて頂いた時はとても嬉しかったです。（ウスワテュンさん）

インドネシア出身の7名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ ロリタ・フランシスカ・シアハアンさん （27歳） スマトラ島 メダン出身
- ◆ ウスワテュン・ハサナさん （27歳） ジャワ島 テガル出身
- ◆ デヴィ・アングライニさん （28歳） スマトラ島 ランプン出身
- ◆ クルニア・アグン・バハキアさん （25歳） ジャワ島 インドラマユ出身
- ◆ ウリス・ウィディアニンシさん （24歳） ジャワ島 インドラマユ出身
- ◆ ウブルルホリアさん （21歳） ジャワ島 インドラマユ出身
- ◆ ドイデシャンティさん （30歳） スマトラ島 ランプン出身

地域密着型特別養護

老人ホーム

のぞみの郷

社会福祉法人 のぞみ福祉会



外国人 技能実習 制度

地域密着型特別養護老人 ホームのぞみの郷

〒384-0093
長野県小諸市和田 966-151
TEL:0267-25-1160
FAX:0267-25-1162
URL:<http://www.nozomi-g.co.jp/>

介護サービス

地域密着型介護老人福祉施設入所者
生活介護

介護予防小規模多機能型居宅介護所者
生活介護

職員体制（職員数）

介護職員：15名

外国人介護職員

ベトナム 2名(技能実習生)



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

ベトナムの日本企業で働いていた経験から、日本人の勤勉で真面目な働き方がとても好きでした。こうした経験からいつか日本で就労してみたいと思うようになり、この仕事を選びました。（チャンさん）私にはベトナムに小さい子どもがおり、家族を支えるために外国で働くことを決めました。色々な国を調べましたが、日本は魅力的な国でしたし、介護の仕事は自分の性格に合っていると感じています。（ヴァンさん）

介護の仕事はどうか？

楽しいです！毎日利用者さんとお話しできることがとても楽しいです。方言はちょっと難しいですけどね。（ヴァンさん）認知症の利用者さんはとても興味深くて楽しいです。（チャンさん）

将来の夢や目標は？

子どもの頃から教師になりたいという夢がありました。いつか日本語の教師になりたいと思っています。（ヴァンさん）まずは日本語がペラペラに話せるようになることです。ペラペラになったら次の夢を目指したいです！（チャンさん）

趣味は？

料理をすることです。（ヴァンさん）読書をするのが好きです。最近はテレビで日本語のニュースをよく観ています。テレビを観ながら字を読むことをしています。（チャンさん）

日本に来て出かけたお気に入りの場所はどこですか？

松本城です。そのほかにも有名な観光場所に連れて行ってもらいました。（2人）

日本に来て最初に覚えた言葉は？

「見切り品」という言葉です（笑）この言葉はお気に入りです。（ヴァンさん）

ベトナム出身の2名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ グエン・ティ・ヴァンさん （25歳） ベトナム ゲアン出身
- ◆ ファム・トゥ・チャンさん （29歳） ベトナム ナムディン出身

技能実習生の先駆的な受入れをスタート。「介護型軽費老人ホームケアハウスのぞみ」

技能実習制度に「介護」が追加された、翌年の平成 30 年 10 月、のぞみグループとしては初めてとなる技能実習生を受け入れた「介護型軽費老人ホームケアハウスのぞみ」。インドネシアから 3 名の技能実習生を受け入れました。1 期生のロリタ・フランシスカ・シアハンさん、ウスワテュン・ハサナさん、デヴィ・アングライニさんは技能実習を開始し現在 4 年目を迎え、技能実習 3 号として活躍しています。令和 4 年 1 月には初めての介護福祉士国家試験にもチャレンジしました。現在は 3 期生まで受入れ、総勢 7 名の技能実習生が働いています。

1 期生受入れ当時は振り返り、初めは分からないことばかりで不安だったそうですが彼女達の方から自分達の思いを話してくれ、あっという間に打ち解けられたそうです。「一番心配していたのは、利用者さんが受け入れてくれるかということだったのですが、入って 3 日もすると日本人スタッフを呼ぶ声よりも、彼女達を呼ぶ声の方が多く安心したことを覚えています。笑顔が本当に素敵で利用者さんからとても喜ばれています」と施設長の石原新治さん。1 年後には同国から新たに 2 名が加わりました。2 期生について「愛嬌があつてとても可愛くアイドルのような存在です」と事務長の高橋由美子さん。1 期生のように順調とは行かず日本語の勉強にやや苦戦しているようですが、明るい性格で利用者さんを笑顔にさせることが上手なんだそうです。令和 3 年 2 月には、3 期生も加わりますます賑やかになった同施設。

そんな彼女達の良さについて「相手を立てる姿勢や言葉遣いなど日本人がすっかり失われてしまった感覚をもっている。その辺りがすごいと思います。私達日本人がそういう感覚を呼び戻してもらっています」と高橋さん。今後も積極的に外国人介護職員の受入れをしていきたいと考えているそうです。

1 期生の姿は後輩のお手本に・・・

今は介護福祉士国家試験のための勉強を中心にしているのですが、日本語の勉強は、テキストのほかに YouTube などを使って勉強しました。（ウスワテュンさん）

1 期生は入職時には既に N 3 に合格していたこともあり、学習する姿勢がしっかりと身につけていました。向上心も高く、日本に来て最初の日本語能力試験の時には 2 名が N 2 に合格、もう 1 名も次の試験で合格するなどとても優秀でした。そんな勤勉な 1 期生の姿をお手本に、2 期生、3 期生もどんどん上達しています。（石原新治施設長）

共通言語「日本語」色々な国の良さを実感。「地域密着型特別養護老人ホームのぞみの郷」

「介護型軽費老人ホームケアハウスのぞみ」と同一敷地内にある「地域密着型特別養護老人ホームのぞみの郷」。小規模多機能型居宅介護事業所と地域交流スペースが併設された複合型施設として、地域の方々とふれあいの場を設けるなどその特性を生かしたサービスを提供しています。同事業所では令和 3 年 3 月よりベトナム国籍のグエン・ティ・ヴァンさんとファム・トゥ・チャンさんが元気に働いています。

母国ベトナムにある自動車部品製造の日本企業で働いていた経験から、日本人の勤勉な姿に感銘を受けたというチャンさん。特に日本人の真面目で時間を正確に守る姿に惹かれたそうです。介護の仕事は未経験でしたが、やりがいを感じ楽しく働いているそうです。

一方のヴァンさんは幼少時から教師を目指しており、いつか日本語の教師になりたいという夢を叶えるため、日本で働くことを決めました。母国に 2 人の子どもがいるヴァンさんは、介護の仕事が自分にとって適職だと感じたそう。生活の中で見切り品をつい探してしまうなど、母親としての一端が垣間見えることもあるのだそうです。

明るい性格の 2 人はケアハウスのぞみの技能実習生とも仲がよく、国を超えたつながりがあります。「ケアハウスのぞみはインドネシア出身者が多く、日本人がいないといインドネシア語が飛び交ってしまうということがあったのですが、インドネシアとベトナム両国から来た彼女達の共通言語は日本語なので、日本語力の向上にとってもいいんです。色々な国から受け入れるという良さもありますね」と石原さん。今後はミャンマーからの受入れも考えているそうです。

受け入れについて メッセージ・アドバイス

「案ずるより産むがやすし」ですね。初めての受入れでは不安はあって当然だと思いますが、あまり考えすぎず、受け入れてみるという度胸も必要かなと思います。受け入れてしまえば、私たちが気づかされることがいっぱいありますし、受入れてよかったことばかりです。（事務長：高橋由美子）彼女たちは共に働く仲間です。そこに人種や国籍は関係ない。外国人だから・・・という目で見ないことが大事なことだと思います。（施設長：石原新治）



外国人 技能実習 制度

介護老人保健施設 めぐみ さと 愛の郷

〒385-0021
長野県佐久市長土呂 860-2
TEL : 0267-67-8870
FAX : 0267-67-8871
URL: <http://www.skdf.jp/>

介護サービス

入所療養介護・短期入所療養介護
(併設：通所リハビリテーション)

職員体制（職員数）

介護職員：51名

外国人介護職員

ベトナム 3名(技能実習生)

日本で介護の仕事を選んだ理由は？

社会に意義ある仕事をしたいと思い、日本の介護の仕事を選びました。(クインさん) 日本はヘルスケアを非常に重視しているため、日本の介護の知識とケアスキルを身につけたいと思い、日本で働くことを選びました。(フオンさん)

仕事のやりがいや嬉しかったことは？

認知症の利用者様が、私の名前を忘れることなく覚えてくださっている事がとても嬉しかったです。(トウイさん)

趣味やこれから佐久で挑戦してみたいことは？

読書と小さな物を作る事が好きです。(フオンさん) チャンスがあったら浅間山に登ってみたいです！(トウイさん・クインさん)

ベトナムと日本の介護の違いはどのようなところだと思いますか？

ベトナムには介護施設がまだ少なく、家族や親戚が介護をしています。日本のような介護を専門とする職種がないことが違いの一つです。(トウイさん・クインさん)

将来の夢や目標は？

将来は、ベトナムに介護老人ホームを作りたいという夢があります。(クインさん) 日本語能力試験N1合格と介護福祉士国家試験に挑戦したいです。(トウイさん) これからも日本でずっと働きたいです。(フオンさん)

ベトナム出身の3名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ ホアン・ティ・トウイさん (24歳) ベトナム イエンバイ出身
- ◆ チャン・ティ・クインさん (24歳) ベトナム イエンバイ出身
- ◆ チャウ・ゴック・フオンさん (25歳) ベトナム ホーチミン出身



佐久市内で初めての介護技能実習生の受け入れ

佐久市長土呂にある社会福祉法人佐久平福祉会「介護老人保健施設^{めいみ}愛の郷」では、現在ベトナム国籍の3名の技能実習生が元気に働いています。1期生のホアン・ティ・トウイさんとチャン・ティ・クインさんは佐久市内で初めての介護技能実習生として令和元年5月から実習を開始しました。技能実習制度に「介護」が追加されてからまだ2年と実例が少ない中での先駆的な受け入れであり、すべてが手探りのスタートだったそうです。そのため、現場の職員や実習生が少しでも安心できるよう、受け入れから2週間は監理団体から派遣された通訳とグループ法人から出向しているベトナム人通訳スタッフが両者をサポートする体制を整えたそうです。そのおかげもあり、順調にスタートをきることができました。

2人はベトナムの看護専門学校を卒業後、技能実習生として日本に来るため、介護や日本語の勉強をしてきました。介護分野における技能実習生の受け入れには、入国時に日本語能力試験（JLPT）N4程度の日本語力が求められますが、2人は入国時にはN4を上回るN3に合格しており、想定していたよりも会話ができたそうです。また穏やかで素直な性格と人柄もあって、職員と打ち解けるまでに時間はかからなかったそうです。

受入れから半年が経過すると、ある程度の仕事は任せられるまでに成長し、今では現場において欠かせない存在になっているそうです。2人について同施設は「日本人に近い感覚を持っていると感じます。細やかな気遣いだったり、心のあるケアができ、利用者様への対応は日本人職員がお手本にしたいくらいです。今後は新たな外国人スタッフのリーダー的な存在として、指導者としても活躍してほしいと願っています」と期待を寄せています。2人はこの春、3年の技能実習を終え、4月からは在留資格「特定技能1号」として引き続き同施設で就労していく予定です。

また、1期生の受入れから1年8か月後の令和3年1月には、同国から2期目となる技能実習生を受け入れました。日本語力の面で課題はあるそうですが、先輩である1期生の姿をお手本に、モチベーションを切らすことなく一生懸命自己学習に励んでいるそうです。

3人の技能実習生を受け入れ、悩みの一つだったことは、実習生の生活指導の面だったそうです。「実習生といっても成人した社会人なので、どこまで個人の生活に踏み込んで指導すべきか悩みました。佐久に来てまだ間もない頃は、細やかな指導をしていたのですが、小さい子ではないので何度も同じことを言うと、しつこくなってしまふ指導の面で迷いがありました」と生活指導員の高野弘子さんは話します。こうした悩みは外国人介護職員の尊厳を大切に思えばこそのも。悩みながらも、実習生に寄り添いサポートをしているそうです。

表敬訪問

令和元年6月10日、佐久市の柳田清二市長を表敬訪問し市内で初めての介護技能実習生として紹介させていただきました。



実習生は緊張の中、「日本で介護を学び将来は母国で生かしたい」と抱負を語りました。柳田市長からは「皆さんはトップランナー。大変立派だ」と激励をいただきました。

日本語教室での様子

「福祉・介護のつばさ事業」の日本語教室にも通いました。佐久大学で行われた介護日本語クラスに参加し佐久市内の技能実習生と一緒に学習しました。

意欲的に学ぶ2人の姿はすばらしかったです。

2期生のフォンさんも続き、実習生全員、頑張っています。



受け入れについて

メッセージ・アドバイス

受入れ前に、コミュニケーション方法として「やさしい日本語」を学び、実習生と話をするときには実践しているのですが、指導員だけでなく、すべての職員が理解し学習する必要があると感じました。全職員が共通の認識をもって、サポートすることが外国人介護職員と円滑に仕事をする上で大切なポイントだと思います。
(技能実習指導員：土屋美和・大森貴子)

特別養護老人ホーム

佐久平

めぐみ さと
愛の郷

社会福祉法人 佐久平福祉会



外国人 技能実習 制度

特別養護老人ホーム

めぐみ さと
佐久平愛の郷

〒385-0034

長野県佐久市平賀 741

TEL : 0267-64-5331

FAX : 0267-64-5332

MAIL: tokumeguminosato@skdf.jp

介護サービス

入所生活介護・短期入所生活介護
(併設：通所介護)

職員体制 (職員数)

介護職員：106名

外国人介護職員

フィリピン 1名(定住者)
ベトナム 3名(技能実習生)



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

母国では看護師として病院に勤務していました。祖母を介護した経験から、日本で介護の勉強がしたいと思い、技能実習生として2019年7月に来日しました。日本はとてもきれいな国で楽しいです。(フォンさん)

日本にきて一番苦労したことは？

日本語です。利用者さんとの会話もそうですが、初めは日本人スタッフとのコミュニケーションにも苦労しました。今では親しいスタッフも出来て楽しく働いています。(フォンさん) 介護記録は今もまだ難しいです。特に漢字が難しいですが、頑張っています。(ゴックさん)

ホームシックはどう乗り越えましたか？

それほどひどくはありませんでしたが、母国の両親と電話をすることで、少しずつ乗り越えることができました。(オアンさん)

今後入国してくる外国人介護職員へのアドバイスは？

働きながらもずっと日本語の勉強を頑張って続けていくことが大切だと思います。(3名全員)

ベトナム出身の3名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ ファム・バ・ゴックさん (27歳) ベトナム ハイズオン出身
- ◆ グエン・ティ・フォンさん (25歳) ベトナム イエンバイ出身
- ◆ チン・ティ・キム・オアンさん (24歳) ベトナム タインホア出身

勤勉で努力家 熱心な姿がスタッフを変えるきっかけに・・・

JR 小海線中込駅より車で約 5 分の場所に位置する「特別養護老人ホーム佐久平愛の郷」は、入所から通所事業まで幅広く運営している社会福祉法人佐久平福祉会の特別養護老人ホームです。令和元年 9 月からベトナム国籍の技能実習生が元気に働いています。3 人は母国の看護学校を卒業し、それぞれ夢を抱いて日本にきました。技能実習生をスタッフとして受入れるのは同施設としては初めての経験でした。日頃、外国人と接する機会があまりなかったこともあり、コミュニケーションに不安を感じていたそうですが、実際は受入れ当初から想定していたよりも日本語が上手で驚いたそうです。それでも、慣れない日本語での会話は苦労がなかったわけではなく、特に難しい言葉や漢字に苦戦していたそうです。指導する側としても初めての経験でしたが、短い文でゆっくりと話したり、難しい言葉は別の言い方に変えるなど、わかりやすい表現を心掛けたそうです。また、一度に言葉ですべてを伝えるのではなく、「ここまでは分かりましたか？」と彼らの理解度を確認しながら、時には実践して見せるなど、体全体を使って言葉を覚えていけるように指導したそうです。「日本語は読み方が一緒でも意味の違う語彙があり、日本人なら漢字を想像することで意味が推測できますが、漢字文化ではない彼らに、どう説明すればよいのか悩みました」とチューターの金澤あかねさん。指導する側として改めて日本語の難しさを感じたそうです。それでも、彼らも決して受け身ではなく、わからない語彙があれば辞書を引いて調べ、ひらがなでルビをふったり、時間を見つけては日本語の学習をするなどとても勉強熱心だったそうです。皆がとても仲が良く支えあいながら努力を重ねた結果、日本語力は着実に上達しました。

勤勉で吸収力の高い彼らは、周囲の細やかな動きをよく見て学ぶことも多かったそうです。その熱心な姿は、日本人スタッフへも伝わり、「私達が見本となるような姿を見せたい」とスタッフの意識が変わり、施設全体へもよい影響があったそうです。さらにその観察力は利用者の異変にも敏感に気づくことができ、初めのころはどういう状況なのか言葉でうまく伝えられなくても、自分で利用者の顔を見て、何か様子がおかしいと報告してくれたそうです。

佐久での生活や業務にも慣れてきた 2 年目からは夜勤も開始しました。認知症や亡くなる利用者も少なくない中で、一人ひとり丁寧に思いやりを持って関わり、今では皆に愛され施設にとって欠かせない存在になりました。「国籍は関係なく、関わっていけばいくほど仲良くなれると感じました。外国人ということで初めは言葉の壁を心配していたけれど、大きなことではありませんでした。それは何より彼らが一所懸命努力してきたからこそ。自分たちが感銘を受けることが多かったですし、すごく優秀だと感じています」と同施設は話します。

きめ細やかな生活支援

生活面においては、実習生が生活で困っていることを小さいうちに早期に拾い上げようと毎月 1 回定期的に生活相談員との面談日を設け、相談に応じてきました。灯油の量の確認のような小さなことから、栄養相談、「最近虫歯があるような気がする」といえば、歯科受診に繋げるなど、環境や生活習慣が違う日本での生活において、心身を崩さずに実習生活が送れるようきめ細やかに対応してきたそうです。最近アパートに訪問し捨てられなかったごみや段ボールなどを回収してくることもよくあるそうです。また、令和元年の台風 19 号災害の際には、実習生の自宅が避難区域に入ってしまったため、避難所へ行けるよう支援もしました。

ベトナムとの生活において大きく違うのはなんといっても佐久の冬です。寒さになかなか慣れない実習生もいる一方で、初めて見る雪を喜ぶ実習生もいました。同施設ではアパートでこたつやヒーター、灯油ストーブなどで暖をとれるよう環境を整えました。自転車での運搬が難しい灯油の購入の際には施設車両で送迎を行い、実習生が生活しやすいように工夫したそうです。また、ベトナムの最大行事である旧正月には、家族と共にお祝いをするのができない実習生のために、3 人の休みを合わせるなどし、同国の仲間と少しでも楽しんでもらえるよう配慮もしました。3 人について「本当によく頑張っていて、施設を支えている大切な存在です」と語るのは、主任生活相員の蟹澤由美子さん。あたたかいまなざしで親身に異国での生活を支えてきました。私達日本人が一人ひとり違うように、彼らもそれぞれ個性がありサポートも一様ではなかったそうですが、今ではすっかり佐久での生活に慣れ、逞しさを感じるくらい成長したそうです。



受け入れについて メッセージ・アドバイス

外国人材の受入れは、よくわからないといった不安から、心配が先立ってしまうことが多いと思います。当施設では多文化共生を通じて多くのことを得ました。色々な情報を得て、事業所間で誘い合ったりなどできれば、今後佐久地域においてますます受入れが進むのではないかと考えています。彼らの良さをもっと知ってほしいと願っています。(参与：井出 亮)

小規模多機能 あったかほーむ 中込

株式会社 エビー介護サービス

外国人 技能実習 制度



小規模多機能 あったかほーむ中込

〒385-0051
長野県佐久市中込 3713-11
TEL : 0267-78-3655
FAX : 0267-78-3226
MAIL: <https://fb-kaigo.co.jp/service/shokibo.php>

介護サービス

小規模多機能型居宅介護

職員体制（職員数）

介護職員: 17人

外国人介護職員

ベトナム 1名(技能実習生)

日本で介護の仕事を選んだ理由は？

ベトナムでは看護の専門学校に通っていましたが、日本人の友人に介護について色々聞いたことがきっかけで、介護に興味をもつようになりました。また日本はきれいで親切な国で、日本人の働き方にも憧れがあったことも理由の一つです。1年間ベトナムで日本語を学び、令和元年9月から技能実習生として佐久市で働いています。

どんな仕事をしていますか？

利用者さんの食事介助や入浴介助をしています。初めは名前を覚えることも日本語を聞き取ることも本当に難しかったですし、仕事のやり方も全く分からなかったのですが、全てにおいて難しかったです。職場で、ベトナム語を話せる通訳さんを3か月つけてくれて、また上司や職場の皆さんに介護技術や日本の調味料のこと、食事の作り方を1から教わり、仕事に慣れることができたので、本当に感謝しています。

今では利用者さんと普通に会話ができ、その中で冗談を言われることもあります。ベトナム人と日本人という壁を全く感じないことがとても嬉しいです。

将来の目標は？

日本語と介護の仕事についてさらに学び、介護の仕事が続けていきたいと思っています。いずれはベトナムで介護施設を作ることが夢です。

日本（佐久）で驚いたことは？

佐久の寒さにびっくりしました。暖かい洋服を買い足しました。

日本は食事のときに配膳の位置が決められていることにびっくりしました。お茶の入れ方も初めて学びました。

ベトナム出身の技能実習生が頑張っています！

◆ レー・ティー・ランさん

(25歳) ベトナム タインホア出身



気遣いのできる優しさにあふれ、手を離さない利用者も・・・

住み慣れた地域での生活を継続することができるよう、通所サービス、訪問サービス、及び宿泊サービスを柔軟に組み合わせ、地域での暮らしの支援を行っている「小規模多機能あつたかほーむ中込」。同施設では令和元年9月よりベトナム国籍のレー・ティー・ランさんが元気に働いています。受入れ当時は振り返り「実習生がくると聞いても初めは何をどこから手をついたらよいか正直わかりませんでした。どう困るのか、どこから教えたらいのか全てにおいて手探りでしたが、体験を通して理解を深めてもらいました。ここはご利用者様と一緒に食事作りをしているため、実際に日本の調味料を舐めてみたり、一緒に食事をしたりすることで日本文化を知ってもらいました」と話すのはランさんの実習指導者（入職当時）の梅田由美子さん。温かいまなざしでランさんを見つめながら「非言語的コミュニケーションの取り方がとても上手ですぐに職場に馴染めていました。ご利用者様の中には認知症の方もいますが、関わり方がとても上手です。気遣いのできる優しい心のある子で、ご利用者様が手を離さないこともあります」と能力の高さを評価していました。

実習を開始してから2年半が経ち、現在はほとんどの業務を一人でこなすまでに成長しました。受け入れ当初から語学力が高かったランさん。現在はさらに語学力も上がり、着実にスキルアップしているそう。管理者の中澤綾子さんは「もう教えることがほとんどないくらいです。今は初任者研修を終え、実務者研修に入っているところですが、ランさんがベトナムからきた実習生ということのを忘れるくらい、日本語能力や介護知識がとても高いです」と話します。ここまで成長した背景にはランさんのもともとの能力の高さに加え、わからないことはそのままにせず、分かるまでしっかりと確認し、自分のものにしようとする向上心の高さがあったそう。それだけでなく、仕事の一つとして覚えた料理の腕も感心するレベルで、仕事だけでなく生活力も高く、私生活でも困るようなことはないそうです。

今後について、同施設では新たに入国してくる外国人材のリーダーとしても活躍してほしいと期待を寄せており、事業所として今後を見据えた取り組みも始めているそうです。

自社だけでなく、他社の外国人へも支援の輪を・・・エフビー介護サービスの「介護初任者研修」

同社では「長野県外国人介護人材受入支援事業費」を活用し、日本人受講生と同社の介護技能実習生の他、県内在住で他社の介護施設で働く外国人やこれから介護業務に携わろうとしている外国人も含めた「介護職員初任者研修」を実施。外国人受講生が参加しやすいように、通訳の配置やルビ付きのテキスト教材の用意などをし、受講しやすい環境を整えたそうです。研修は好評で、実習生が積極的に学ぶ姿勢は研修を共に受ける日本人受講生にも良い刺激となりモチベーションの高い研修につながっています。

実習生との交流企画「ベトナム料理」

1年に1回、ラン料理長指導のもと、利用者の皆様にも手伝っていただき「ベトナム料理」を楽しんでいます。完成した料理は皆さんで美味しく頂いています。



生春巻きや焼き春巻きなどのベトナム本場の味が並びます！時には前日から鯛をさばいて準備してくれることも・・・



お昼の準備



和食も完璧に作ります！



受け入れについて メッセージ・アドバイス

ランさんだからなのか分かりませんが、仕事に対してとても熱心で、スタッフとして本当に助かっています。受け入れ当初は慣れない日本語に本人もスタッフも苦労がなかったわけではありませんが、今では困難を感じることは全くありません。思いやりがあって本当に優しいランさんの姿はお手本にしたくらいですし、職場全体が明るくなりました。（管理者：中澤綾子）

デイサービスセンター ショートステイ 布施屋

社会福祉法人 望月悠玄福祉会



外国人 技能実習 制度

デイサービスセンター布施屋 ショートステイ布施屋

〒384-2203
長野県佐久市布施 769-1
TEL:0267-78-5166
FAX:0267-54-2811
URL:<http://www.yuugen-fukushikai.com/fuseya/index.html>

介護サービス

通所介護
短期入所生活介護

職員体制（職員数）

介護職員：〈通所介護〉9名
〈短期入所生活介護〉11名

外国人介護職員

インドネシア 2名(技能実習生)



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

2人の兄が日本での就労経験があり、日本はとても良いところだと聞いていたので、いつか自分も日本に行きたいと思っていました。技能実習生として日本で働けるチャンスがあったので、挑戦しました。中でも介護職はとても素晴らしい仕事だと思っていたので、介護の分野を目指そうと思いました。（シティさん）

佐久市（望月地区）についてどう感じていますか？

とても住みやすいです。もともと自然や山が好きなので、緑が豊かでとてもいいところだと思います。（マヤさん）故郷に似ている部分もあり、賑やかすぎないところが気に入っています。（シティさん）

将来の目標は？

今の事業所でできるだけ長く働きたいです。介護福祉士の資格も取りたいです。いつか山登りもチャレンジしてみたいです。（マヤさん）

日本の文化で驚いたことはありますか？

インドネシアでは入浴習慣がないので、初めは湯加減がよくわからず、熱いお湯をかき混ぜることもうまくできませんでしたが、今ではすっかり慣れました。（シティさん）

仕事のやりがいや嬉しかったことは？

インドネシアには日本のような要介護高齢者がケアを受ける施設はないので、初めはとまどうこともありましたが、利用者さんと話をしたり歌を歌ったりすることがとても楽しいです。最近嬉しかったことは、地域のバレーボールクラブに入れたことです。望月地区のみなさんと交流しながら趣味のバレーボールができてとても嬉しいです。（マヤさん）

佐久で挑戦してみたいことは？

インドネシアでは雪は降らないので、雪の降る佐久でスキーに挑戦してみたいです。（マヤさん）

インドネシア出身の2名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ シティ・サディヤーさん （23歳）ジャワ島 インドラマユ出身
- ◆ マヤ・サローさん （22歳）ジャワ島 インドラマユ出身

明るい笑い声が響き、施設内に活気があふれる

佐久市望月布施にあるデイサービスセンター布施屋・ショートステイ布施屋では、インドネシア国籍の2名の技能実習生が元気に働いています。母国の高校を卒業後、日本語や介護について1年ほど学び入国しました。

事業所にとって、2人は初めての外国人介護職員ということで、受入れが決まると、インドネシアへの理解を深めるために情報誌などを使い異文化の勉強をしたり、2人のために利用者の名簿にひらがなでルビをつけるなどの準備をしました。

令和2年5月、新型コロナウイルスの影響で、通常受入れとは異なる対応を求められることもありましたが、無事に迎え入れることができました。受入れ当初は、日本語での会話に不慣れで、質問の答えも、「大丈夫です」「はい」「楽しいです」とばかりで、どこまで理解してくれたのか、どう感じたのか、本音が分らずとも不安だったそうです。実践してみるとやはり理解していなかった事もあり、一つひとつ丁寧にゆっくりと、時にはジェスチャーも交えながら実際にやってみせるなどし、理解を深めてもらいました。また、食事介助の際、職員がむせている利用者の背中をさすっていた姿を見て、見様見真似で肩をさすっていたこともあり、なんのためのケアなのか介護の根拠を示しながら動作の一つひとつを教えたそうです。

はじめは不慣れなことからうまくいかないこともありましたが、飲み込みの早い彼女達は、教えた内容はきちんと出来るようになり、半年も経たないうちに事業所にとって、欠かせない存在となっていきました。「2人がいると事業所内に笑い声が響いて、とても明るい雰囲気になります。2人がいる日の朝は体調確認に使用する血圧計などがきちんと準備されていて細やかな面でもかなり助かっています」と施設長の井出登美子さん。彼女達は利用者から本当に喜ばれているようで、ある一人からは「優しくてにこやかにいつも話しかけてくれる。それがとても嬉しい」といった声が聞かれました。最近では、自ら企画したインドネシアの手作りお菓子を振舞ったり、朝の体操も自ら率先してアレンジを加えるなど、利用者を喜ばせるために自発的に考え行動に移すほどまでに成長したそうです。井出さんは、「感性がよく、楽しませようとするサービス精神、心意気をすぐ感じる。フロア全体をよく見ていて、気づきがとてもよい。一番大切な介護の基本がしっかりできている。実習が終わったあともまた戻ってきてほしいです。」と高い評価をしています。

違いを知り、相手を理解・尊重すること

イスラム教徒である2人は、1年に1回、ラマダン（断食）があるのですが、2人が入職した月と重なり、とても心配しました。本人達は慣れた様子でしたが、食べ物や仕事内容などどのような配慮をすべきなのか、受け入れ側がまだ不慣れなこともありとても悩みました。2年目の今年は、即戦力として多くの介助に入っていたこともあり、脱水にならないかなど、1年目とはまた違った心配をしましたが、本人達や佐久市の生活相談員から情報を得ることで、対応の仕方が分かりました。これまでに2回のラマダンを経験しましたが、本人達はいつもと変わらず元気に過ごしており、今思うとそれほど心配はいらなかったと思っています。

わかりやすく伝える工夫

インドネシアでは、日本のように浴槽にお湯をはって入浴するという習慣がなく、一日に数回の水浴（桶に汲んだ水を浴びて全身を洗う）をする人が多いようで、初めての入浴介助では戸惑いが大きいようでした。当事業所では、あらかじめ設定した温度でお湯をためられるため、数字を見せながら指導しました。お湯の熱さに慣れるまではしばらくかかりましたが、こうした具体的な指標はすぐに理解ができ、分かりやすいようでした。

インドネシアフェア（法人 Facebook より抜粋）

5月23日（日）はインドネシアフェアを開催しました。布施屋で頑張っている技能実習生2名の母国です。当日はインドネシアのナシゴレンを栄養課が用意して、利用者様にアジアンテイストを楽しんでいただきました。その後いきいき工房に会場を移して、2人がインドネシアの風景を利用者様に見せて、説明してくれました。そして二人の踊りの披露もありました。この日のためにおそろいの衣装を用意して、二人とも頑張ってくれました。

利用者様は遠い国に思いをはせて、故郷を離れて、一生懸命頑張ってくれている二人の事がますます大好きになってくださいました。これからも、こんな機会を度々作って、お互いが理解しあって、笑顔で過ごせる布施屋にしていきたいと思っています。

技能実習生のお二人・・・
ありがとう、お疲れさまでした。



受け入れについて メッセージ・アドバイス

介護施設では、認知症や精神疾患のある利用者も少なくはありません。2人が働き始めて間もない頃、認知症の利用者からの攻撃的な言葉に本人達がとても傷ついてしまったことがありました。実習生にはあらかじめ受入れ施設における利用者の抱えている病気や障害などの情報を伝えておくことや、対応困難なケースには、指導者とともに関わるなどの配慮も必要だと感じました。（施設長：井出登美子）

認知症対応型共同生活介護 のぞみの家

株式会社 エスポワール



外国人 技能実習 制度

認知症対応型共同生活介護 のぞみの家

〒384-0093
長野県小諸市和田 840-5
TEL: 0267-25-0760
FAX: 0267-25-0760
URL: <http://www.nozomi-g.co.jp/>

介護サービス

認知症対応型通所介護
認知症対応型共同生活介護

職員体制（職員数）

介護職員：13名

外国人介護職員

インドネシア 2名(技能実習生)



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

インドネシアの地方では、病院に行きたくても経済上の理由から行けない人がたくさんいます。以前からそんな人々のために力になれる看護師になりたいという夢がありました。その夢を叶える第一歩として、日本で介護の仕事に就くことを決めました。日本は幼いころからアニメなどで親しみがあり、きれいで優しい国という印象がありました。介護の仕事を通して、たくさんのことを学びたいと思っています。(シテイさん)

日本語の勉強はどのようにしていますか？

仕事の空き時間や自宅でテキストを使って勉強をしています。テキストも安いものではないので、後輩に貸したり、みんなで助け合いながら学習しています。(シテイさん・ナビラさん)

趣味は？

バトミントンです。同じ寮に住んでいるインドネシアの先輩達と一緒に楽しんでいます。ゲームも好きです。(ナビラさん) 本を読むことが好きですが運動は苦手です…。(シテイさん)

日本で行ってみたい所は？

東京や京都を町歩きしたいです。(ナビラさん)
東京ディズニーランドに行ってみたいです。(シテイさん)

仕事のやりがいや嬉しかったことは？

お年寄りや子どもが大好きなので介護の仕事を通じて関わることがとても嬉しいです。(ナビラさん) ケアを通して利用者様の笑顔が見られたり、元気になられていく姿がとても嬉しいですし、やりがいを感じています。(シテイさん)

インドネシア出身の2名の技能実習生が頑張っています！

- ◆ シテイ・ヌグラヘニさん (25歳) ジャワ島 ウォノソボ出身
- ◆ ナビラ・ヌルアメリカさん (20歳) ジャワ島 コタクラテン出身

マイナスよりもプラスの相乗効果の方が大きかった 受け入れて本当によかったと思います

小諸市和田に位置する認知症対応型共同生活介護のぞみの家は、一人ひとりのペースや生活のリズムを大切に、なじみの関係による支えあいや団らんのある家族のような雰囲気大切にしている地域密着型のグループホームです。同施設では現在インドネシア国籍の2名の技能実習生を受入れています。そのうちの一人、シティ・ヌグラヘさんは令和元年10月から同施設で働いています。日本で介護を学ぶため、入国前に1年間日本語の学習をし、入職当時にはN3に合格していたシティさん。疑問文のイントネーションなど一部に課題もありましたが、利用者さんとスムーズに会話を始めることができました。入職後は主に教科書に沿った形で実習指導、日本語指導を行うとともに、語学力の向上のために指導者と毎日交換日記をしていたそう。「内容は天気や一日の出来事・嬉しかったことなど、どんな話題でもいい事にしました」と話すのは管理者の矢嶋和枝さん。もともとの能力の高さに加え、こうした日々の積み重ねにより、日本語力も介護技術もかなり上達しました。

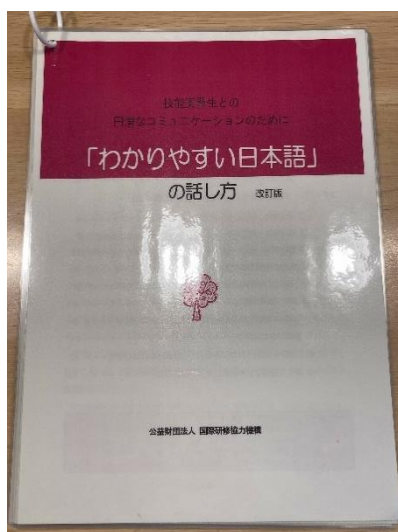
同事業所にとって、シティさんは初めての外国人介護職員ということで、受入れが決まると職員からは不安の声も聞かれていたそうです。そこで、インターネットで「わかりやすい日本語」でのコミュニケーションについて調べ、全職員で共有し学習する機会を作りました。また介護記録に関しても外国人材と共に働くことを考え、だらだらとわかりにくい文章にならないよう、まずは日本人職員の意識を変えるところから始めたそうです。こうした準備により、漠然とした不安が解消され、受入れ後のサポート体制のヒントを得ることができました。

令和3年2月には、ナビラ・ヌルアメリカさんも加わり、2期にわたり技能実習生を受入れた同施設。同国出身の2人ですが、温厚なシティさんとは反対にナビラさんはアクティブな性格の持ち主。それぞれ得意・不得意も異なっていた為、指導方法も一人ひとりに合わせ柔軟に対応したそうです。また、責任感が強く、面倒見のよいシティさんが、よき先輩としてナビラさんをサポートしてくれています。「ナビラさんが入職間もない頃のことですが、少しホームシックになってしまったんです。シティさんも寮には同期生がいますが、職場が違うので、ずっと一人でした。大変なこともあったと思いますが、そういう気持ちを乗り越えてきたからこそ、今はナビラさんのよき理解者になれているのかもしれないです。」と矢嶋さん。シティさんの支えもあり今では彼女らしさを取り戻し笑顔で働いています。

2人について「彼女達は鏡写しのように、良くも悪くも私達職員の姿を見て吸収しています。成長の喜びを感じる一方で、良くない姿を覚えてしまうこともあります。彼女達に悪意はないのですが、特に良くない姿を覚えるほうが早く、仕事に慣れれば慣れるほどそうした事があります。そんな彼女達の姿を見て私達が身を改められることがあり、職員には思い当たる所があれば襟を正しましょうと話しています」と矢嶋さん。2人のおかげで、施設全体により相乗効果が生まれたそうです。「1人目を受け入れて、マイナスよりもむしろプラスの効果が大きかったです。なので2人目もぜひ受け入れさせてほしいとお願いしたほどです。彼女達の真面目で一生懸命な姿に刺激を受けることが多く、教えていく過程で私達も曖昧な知識を再勉強させてもらっています」と高い評価をしています。



「わかりやすい日本語」「交換日記」



技能実習生とのコミュニケーションについて、いつでも手にとって学習できるよう事業所内に掲示しています。

参考資料出典：
公益財団法人 国際研修協力機構

受け入れについて メッセージ・アドバイス

私達も初めは手探りで不安でしたが、研修に行ったことがきっかけで、受入れ側の自分達も学習しないといけないことに気がきました。事業所全員が「わかりやすい日本語」の学習をしたことで、受入れ後のコミュニケーションや指導に役立ちました。(管理者：矢嶋和枝)



EPA に基づく 外国人介護福祉士 候補者

介護老人保健施設 安寿苑

〒385-0051
長野県佐久市中込 1-17-8 5階・6階
TEL:0267-64-1721
FAX:0267-64-1710
URL:
<https://www.keijinnet.or.jp/welfare/entry/anjuen.html>

介護サービス

介護老人保健施設
短期入所療養介護（併設：通所リハビリテーション）

職員体制（職員数）

介護職員：＜入所＞ 53名
＜通所＞ 16名

外国人介護職員

インドネシア 3名
（EPA に基づく外国人介護福祉士候補者）

日本で介護の仕事を選んだ理由は？

インドネシアの看護学校に EPA 介護福祉士候補生になった先輩がいて、色々な話を聞くうちに、興味を持つようになりました。いずれは EPA 介護福祉士候補生になりたいと思うようになり、学生のころからずっと目標にしてきました。日本はきれいできちんとしていることで有名な国なので日本に行きたいと思いました。（ムスリマさん）

将来の夢や目標は？

国家試験に合格して日本の介護福祉士になりたいと思っています。（全員）

母国の家族とは、どうやりとりをしていますか？

What's up という無料のアプリケーションを利用して、電話をしています。（ミアさん）

趣味は？

料理やお菓子作りです。（ミアさん）水泳です。（ムスリマさん）日本のアニメやサッカーが好きです。インドネシアでは野菜も作っていたので、家庭菜園も好きです。（アイディルさん）

日本の食べ物は何が好き？

日本の食べ物は美味しいです。特に一番好きなものは蕎麦です。温かいお蕎麦も冷たいお蕎麦も両方好きです。（ミアさん）たこ焼きが大好きです。（アイディルさん）

休みの日は何をしていますか？

勉強をしたり、買い物に行ったりしています。佐久市日本語教室にも通って勉強しています。職場以外の地域の方との交流が楽しいです。（ムスリマさん・アイディルさん）

インドネシア出身の EPA 介護福祉士候補生が頑張っています！

- ◆ ミア・アングレイン・センピリンさん （28 歳） スマトラ島 メダン出身
- ◆ ムスリマ・ツトユモランさん （22 歳） スマトラ島 シボルガ出身
- ◆ ムハンマド・アイディル・シャプトラさん （22 歳） スマトラ島 メダン出身



佐久市内で EPA 介護福祉士候補生の先駆的な受入れを開始

社会医療法人恵仁会では、平成 23 年より、これまでに佐久市内において先駆的に EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補生を受け入れてきました。平成 29 年に介護老人保健施設安寿苑においてインドネシアから 2 期目となる 2 名の候補生を受入れ、令和 3 年には同国から 3 期目の候補生を 2 名受入れました。きっかけは深刻化する介護人材不足に対し、早い時期から外国人介護人材との共生にむけて土壌を作っておきたいという思いから、積極的に受入れを決めたそうです。

入国後、半年間の研修を終え、佐久に来たのは 12 月。当時はまだカタコトの日本語でしたが、職員に母国の料理を振る舞ってくれたり、2 人から積極的にコミュニケーションをとろうと歩みよってくれる姿があり、すぐに打ち解けることができたそうです。配属先は、初めての受入れということもあり、人員配置にゆとりのある同じユニットに入ってもらったそう。現場では、はじめは単語を中心とした会話でしたが、一緒にやってみたり、やさしい日本語にかみ砕いてゆっくり話すと伝わることも多く、「本人達にしか分からない苦労はあったと思いますが、負担が多く大変ということはないです」と介護主任の佐藤亜希美さんは話します。業務内容に関しても以前に同法人で受入れた経験を活かし、あえて日本人職員と同等の業務内容にしたり、シフトを組むようにしているそうです。「外国人だからと業務を絞ってしまうよりは、日本人と同じような形で仕事も広げていったほうが、本人たちのモチベーションは高くなるのではないかと思います」と事務長の小沼直行さん。日本人職員も EPA 候補生も共に気持ちよく働ける職場づくりを心掛けているそうです。

昨年は 1 期生にとって就労開始 4 年目を迎え、介護福祉士国家試験に向けて挑戦の年となりました。介護に関する諸制度の仕組みなど外国人介護職員にとっては難しい学習もありましたが、仕事の傍ら一生懸命頑張っている姿がありました。また同年 6 月には、新たに 2 名の候補生が加わり、さらに賑やかになりました。皆が同郷のインドネシア・スマトラ島出身ということもあり、入職したての 2 人に生活のことや仕事のことなど、先輩として育成にも関わってくれました。私生活では、「福祉・介護のつばさ事業」を通じて知り合った、他事業所の技能実習生とも親しくなり休日を利用して親交するなど、地域の中でも繋がりができアクティブに行動しています。こうした仲間の存在は、母国を離れ生活している彼女にとって、心の支えとなり、よいリフレッシュの場にもなっているようです。新しい 2 名も市内の他事業所で働いている外国人介護職員と親交があり、職場を超えたこうした交流は、異国で暮らす上での活力になっているようです。これまで積極的に外国人介護職員を受入れてきた同施設。彼らの良さは何といっても「笑顔」と話します。その明るさは利用者さんだけでなく、日本人職員をも照らし共に温かい気持ちで仕事ができるそう。さらには、彼らがいることによって自分たちの意識が良い方向へと働き、業務を振り返るきっかけにもなっているそうです。

週に 1 回 日本語学習時間

週に 1 回、日本語講師（外部講師）による日本語学習の時間を確保しています。介護現場で就労するうえでは継続的な日本語の学習が欠かせません。特に EPA では、介護福祉士国家試験の受験が必須であり、受入れ機関となる事業所は、国家資格取得のための支援体制を整えることが必要とされています。当施設には偶然にも日本語講師の資格のある若い介護福祉士がおり、日本語の教育だけでなく、生活面のサポートも担ってもらっています。一緒に出掛けたり、アパートで食事を作って食べたりと、若者同志意気投合できる関係です。

ミアさん これまでを振り返って・・・

私が安寿苑で働き始めたばかりのころ、ヒジャブ（イスラム教の女性が被るスカーフ）を被っていたこともあり、利用者様から怖がられてしまったことがありました。インドネシアにいる母親に相談し、仕事中はヒジャブを外すことにしました。それからは利用者様が怖がることもなく、私と接してくださるようになりました。佐久に来て 4 年が経ち、仕事にもたいぶ慣れました。物忘れの激しい認知症の利用者様への対応はなかなか仕事が進まないことが悩みですが、……日々頑張っています。安寿苑の職員の方には、困っているときに助けてもらったり、仕事をたくさん教えてもらったりしたことがとても嬉しかったです。これまでたくさんの方に支えてもらい本当に感謝しています。まだまだこれからも頑張っていきたいです。



受け入れについて メッセージ・アドバイス

EPA 候補生は SNS で様々な繋がりをもっています。先輩外国人職員が働いている事業所は、就労希望者にとっては魅力の一つとなり、マッチングに有利になります。SNS を上手に活用し、佐久の介護事業所での外国人介護職員の活躍をもっと発信していければ、また次の循環へと繋がると思います。佐久地域の他の施設さんで、これから受入れたいという希望があれば当事業所の候補生が窓口となり、受入れのサポートをしていくこともできるのではないかと考えています。

（事務長：小沼直行）

特別養護老人ホーム

佐久 福寿園

社会福祉法人 佐久福寿園

EPA に基づく 外国人介護福祉士 候補者

特別養護老人ホーム
佐久福寿園

〒385-0022
長野県佐久市岩村田 4213 番地
TEL:0267-68-3055
FAX:0267-68-6635
URL:<http://www.janis.or.jp/users/fukujuen/>

介護サービス

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
居宅介護支援
通所介護（佐久市岩村田デイサービスセンター）

職員体制（職員数）

介護職員： <入所> 52人
<通所> 5人

外国人介護職員

インドネシア 2名
（EPA に基づく外国人介護福祉士候補者）
中国 1名（定住者）
フィリピン 1名（定住者）



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

インドネシアの看護学校を卒業し、将来看護師としてどう生きたいかを考えたときに、介護分野に興味を持ちました。インドネシアでは介護はまだ確立されていない分野であるので、先進的な日本で介護の勉強がしたいと思い、EPA 制度を利用し日本に来ることを決めました。（ユリさん）

佐久福寿園について

ジャカルタで行われた EPA の集合面接会のときに、複数の会社に来ていたのですが、福寿園の施設長さんの人柄に惹かれたことが一番の決め手でした。（ユリさん）インドネシアでは雪を経験したことがなかったので、一度体験してみたいという憧れがありました。日本の中でも冬に雪が降る佐久の介護事業所に行ってみてと思いました。（ユニさん）

将来の夢や目標は？

日本の介護福祉士になりたいと思っています。日本はインドネシアに比べ、色々な面できちんとしているところが魅力です。（ユリさん）

利用者さんの反応は？

遠いところからよく来たね！と迎え入れてもらいとても嬉しかったです。利用者さんとの会話はまだスムーズとはいきませんが、日々勉強を一生懸命頑張っています。（ユニさん）

日本の料理はどうですか？

天ぷらやたこ焼きなどを食べました。とてもおいしかったです。生魚は苦手ですが、食べられないものはあまりありません。ただ日本食は辛くはないので時々母国の料理も食べたいです。（ユリさん）

インドネシア出身の EPA 介護福祉士候補生が頑張っています！

- ◆ ユニシさん （29 歳） カリマンタン島 バンジャルバル出身
- ◆ ユリアンティさん （24 歳） ジャワ島 デポック出身

新生活に期待を膨らませ、佐久での生活をスタート

佐久市岩村田にある特別養護老人ホーム佐久福寿園では、令和3年6月よりEPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者の受入れを開始しました。新型コロナウイルス感染拡大による入国制限により予定していた時期よりも遅れが生じましたが、入国後半年間の研修を経てようやく迎えられることができました。これまでに外国人介護職員のなかでも、日本国籍を取得した定住者とは共に働いた経験がありましたが、EPAによる受入れは初めての試みであったため、まずは日本人職員にどのように候補生を理解してもらえばよいか課題の一つだったそうです。そこで、受入れ国であるインドネシアの文化や宗教などを事前に学習する機会を作ったそうですが、実際はどうか正直なところ不安だったそう。その他にも利用者が候補生を受け入れてくれるかどうかや事前説明の不足はないかなど、様々な不安が尽きなかったそうです。しかし実際に受け入れてみると、彼女達の明るい人柄や勤勉さはすぐに受け入れられ、生活面においても日本の生活習慣や食事なども躊躇なく取り入れようとする意欲的な姿にとっても驚いたそうです。宗教については2名のうちの1名はイスラム教徒である為、毎日お祈りの習慣があると事前に理解していたそうですが、信仰には個人差があり、それもかなり幅広いということ受入れを通して初めて知ったそうです。

新生活に期待を膨らませ、佐久での生活をスタートした2人。姉妹のように仲が良くホスピタリティにあふれている2人は、『利用者さんの役に立ちたい』という思いが強く、当時はまだ入職間もない頃でしたが、インドネシアで看護師として働いていた経験を活かし、バイタルチェックを通じて利用者と接することから始めたそうです。日本語での会話は最初からスムーズとはいかなかったそうですが、積極的に関わろうとする姿に感心したそうです。今では任せられる業務も増え、人手不足の現場において、特に目の離せない利用者の見守りはかなり助かっているそうです。2人について同施設は「学習意欲がとても高く、利用者からも好評です。分からない語彙があると自分で調べるなど学習姿勢が身につけており、今後は楽しみです」と期待を寄せています。

介護現場における日本語学習

当施設では、毎月彼女たちの状況に応じて学習スケジュールを計画しています。入社してしばらくの間は午前中の2時間、介護技術の研修を行い、夕方に30分程度の振り返りと1時間の日本語学習時間を設けました。生活や仕事に慣れてきた現在は、勤務時間内でも1時間以上日本語学習の時間を設けており、自己学習後の添削や外部の日本語研修、職員による日本語指導をしています。EPAの場合、受入調整機関である国際厚生事業団（JICWELS）から候補生への学習支援として、定期的に介護分野の専門知識に関する通信添削指導（定期的な小テスト）があるため、そうした課題にも取り組んでいます。



指導する上では、日本人なら当たり前の事や日常的に使っている単語や言い回しなどを、文化の違う候補生にかみ砕いて教えることの難しさを実感しました。あいまいさのある日本語独特の表現の仕方は、教える側も難しいのですが、外国人介護職員にとってはさらに難しい為、私達日本人職員が伝える努力が必要だと感じています。また彼女達に分りやすく伝えるということは同時に新人教育にも繋がるため、今回の受入れ経験を活かし新人教育向けなどのOJTプログラムの見直しにも反映させていきたいと考えています。

日本の四季・文化に触れる経験をサポート

仕事以外にも日々を楽しく過ごせるよう、ドライブや職員との食事会なども企画しました。秋には紅葉が見たいということで白駒の池までドライブに行ってきました！



受け入れについて メッセージ・アドバイス

入社までの間に受け入れ体勢を整えるため、まずはEPAの目的や、生活や文化の違いなど資料を作成し職員へ周知する事が大切だと感じました。日本語学習の進め方や介護技術OJTの流れを事前にシミュレーションしつつ学習・技術・フロア業務の指導担当者を決めたり、生活の支援の担当者を決めたりと準備する事は多いと思いますがEPAの学習意欲の高さや仕事への積極的な姿勢に私達も学ぶことが多く、他の職員にとっても、よい刺激となっています！改めて日本語の難しさを知り、日本の良さや佐久市の良さも知る機会となっています。（原田明恵）

小規模多機能型 居宅介護事業所 さんぴあの 家

株式会社 エスポール

特定 技能



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

ネパールでは就職先があまりないこともあり、母国の学校を卒業した後は外国で働いてみたいと思っていました。日本を選んだ理由は、幼い頃から親しみのある国で便利で安全な国という印象があったからです。平成 29 年に日本に入学し、留学生として埼玉県と長野県上田市の日本語学校に通い、日本語の勉強をしました。卒業後はホテルの仕事を希望していましたが、新型コロナウイルスにより就職が困難な状況が続き、そんなとき、介護の仕事を紹介してもらいました。同じ対人関係のサービス業ということでやりがいを感じていますし、おじいさんやおばあさんの笑顔が見ることがとても嬉しいです。

家族は何人いますか？

両親と妹と弟の 4 人家族です。

出身地ネパールのカトマンズはどんなところですか？

カトマンズはネパールの首都です。佐久のように山々に囲まれた地域ですが、1 年を通して温かく冬も雪が降ることはほとんどありません。私は佐久市に来て人生で初めて雪を見ました。佐久の冬はとても寒いですが、雪を見ることができて嬉しかったです。

どのように日本語の勉強をしていますか？

YouTube を使って自己学習をしています。特に漢字は難しいですね。

趣味は？

趣味は音楽と料理です。ネパールの調味料はインターネットを利用して揃えています。佐久市にもネパール料理屋さんがあるので行ったことがあります。

ネパール出身の特定技能 1 号の外国人介護職員が頑張っています！

◆ ガドカ マニシャさん (26 歳) ネパール カトマンズ出身

小規模多機能型

居宅介護事業所さんぴあの家

〒385-0062

長野県佐久市根岸 3203-2

TEL: 0267-88-7521

FAX: 0267-88-7523

URL: <http://www.nozomi-g.co.jp/>

介護サービス

小規模多機能型居宅介護

職員体制 (職員数)

介護職員：13 名

外国人介護職員

ネパール 1 名(特定技能 1 号)

中国 1 名(定住者)



抜群の日本語力の高さ 介護技術は感心するほどのレベル

住み慣れた地域で生活するために、自宅で可能な限り生活が送れるよう通所や訪問、宿泊サービスを柔軟に組み合わせたサービスを提供している小規模多機能型居宅介護事業所さんびあの家。同施設では令和3年5月から特定技能1号の在留資格を持つネパール国籍のマニシャさんが元気に働いています。以前、留学生として日本で生活していたこともあり、受入れ当初から語学力が高く、すぐにでも現場に入れるくらいだったというマニシャさん。そればかりか言葉遣いがとても丁寧で、日本人職員が見習わなければならないと思うほどだったそうです。入職からまだ日も浅いなか、すでに即戦力として活躍しています。

もともと技能実習生を受け入れる予定だった同施設。新型コロナウイルスの感染拡大により度重なる延期を余儀なくされ、受入れが叶わずにいました。そんな時、法人からマニシャさんの受入れについての話がありました。当時、日本国内においては新型コロナウイルスの影響により本国等への帰国が困難な外国人に就労を認める措置ができ、外国人求職者に対する就労支援などの動きが出始めていた時でした。マニシャさんも当初は他の仕事を希望していましたが、コロナ禍による社会情勢を受け、就職ができずにいた一人でした。「受入れへの心構えはありましたが、急な提案に最初は戸惑いました。それでも法人本部で初任者研修までバックアップしてもらい、その後の配属だったので大きな不安はありませんでした。彼女たちも帰りたくても帰れない状況でもあったので。」と管理者の井上茜さん。

受入れにあたっては、利用者さんの写真に名前を書いたものを貼ったり、記録ファイルの難しい漢字にはふりがなをふるなどの配慮をしましたが、その他は特別なマニュアルなどは必要なかったそうです。マンツーマンで1か月間指導をした後は、徐々に業務内容も広がり、今では夜勤業務（準夜勤）も任せられるほどになったそうです。利用者さんの反応も良く遠いところからよく来たねと歓迎してくださっているそう。

将来は介護福祉士として今後も介護現場で働くことを目標にしているというマニシャさん。そんな彼女について、できる限りのサポートをしていきたいと井上さんは話します。マニシャさんの受入れを通じて得た経験は今後の技能実習生の受入れへの自信にもなったそうです。

異なる国の外国人同志での共同生活

事業所に隣接した寮でさんびあ別館勤務のベトナム国籍のホアイさんと共同生活をしています。ヒンズー教徒のマニシャさんは、お昼は寮に戻り自炊しているそう。食材選びはインターネットを活用しているほか、自転車近くのスーパまで買いに行ったり、バスや電車に乗って遠くまで出かけることもあるとのこと。ホアイさんとは日本語学校に通っていた頃からの付き合いで、時には喧嘩をすることもあります。仲のよい友達だそうです。2人の共通言語は日本語。「同じ国籍だと寮では母国語で話してしまうことが多いと思いますが、彼女たちは別々の国ということもあって、日本語を使って日常的に会話をしています。そういったことも日本語力の高さにつながっているのかと思います」と井上さんは話します。

同法人の事業所「のぞみの家」の職員による生活相談サポート

3か月に1回、同法人の事業所「のぞみの家」の職員が、マニシャさんの生活相談にのってくれています。直属の上司には話づらいことも、普段直接関わりのない職員なら話しやすいということもあり、本人もとても心強く感じているようです。のぞみの家では、現在2名のインドネシア国籍の技能実習生を受入れており、その経験から外国人材が抱えやすい悩みにも気づきやすいそう。こうした事業所間のサポートは、外国人材を受け入れている同じ事業所として、共に支えあい、成長していけるよき存在となっているようです。



受け入れについて

メッセージ・アドバイス

初めてのスタートは不安が尽きないと思いますが、教えたことはどんどん吸収し素直でひたむきな姿を見ていると、それほど心配はいらなかったと思っています。また、マニシャさんは配属前に初任者研修を受けていたため、現場での理解も早く指導もスムーズでした。事業所にとって、こうした研修の機会が導入において大きなサポートになると思います。（管理者：井上茜）

外国人 留学生

佐久大学・佐久大学信州短期大学部

〒385-0022
長野県佐久市岩村田 2384
TEL:0267-68-6680
FAX:0267-68-6687
URL:<https://www.saku.ac.jp>

福祉学科

- ・介護福祉専攻
- ・子ども福祉専攻

外国人留学生

台湾 2名



日本で介護の仕事を選んだ理由は？

留学する以前に台湾のナースホームでケアワーカーとして働いていた経験があり、高齢者ケアには関心がありました。高齢化の進む日本では、介護サービスが充実しており、介護についてもっと幅広い勉強がしたいと思い日本へ留学することを決めました。日本はもともと好きな国の一つで、ワーキングホリデーを利用して来たこともあったので、留学が決まりとても嬉しかったです。（陳さん）

学校生活で楽しかったことは？

サークル活動です。地域交流サークルに参加し、学園祭の時にみんなでソーラン節を踊りました。たくさんの友人を作ることができ、とても楽しかったです。（陳さん）

学食の時間です。自分で食券を買うというシステムは台湾にはなく、初めての経験でしたが、栄養バランスのとれた食事が安く食べられとてもよかったです。日本のお米とお味噌汁がとてもおいしかったです。また、スーパーのちらしを見て安い食材を探して買いに行く事もとても楽しかったです。（紀さん）

アルバイト先の施設ではどのような仕事をしていますか？

紀さんと一緒に「特別養護老人ホーム結いの家」で月に32時間（週1回8時間）のアルバイトをしています。主に食事介助、トイレ誘導、レクリエーション、入浴介助などを行っています。レクリエーションを通じて利用者さんの笑顔が見られた時はとても嬉しかったです。（陳さん）

事業所の方には、宿舎の近くの駅まで送迎して頂きとても有り難かったです。見守りの時に同時に2つのことが起きたときの対応がとても大変でしたが、必ず職員の誰かが来てくださるので、安心して働くことができました。（紀さん）

将来の夢や目標は？

いずれは介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格をとれるよう頑張りたいです！また日本と台湾の介護の架け橋になり、台湾の介護分野へ貢献をしたいと思っています。（2人）

台湾出身の2名の留学生が頑張っています！

- ◆ 陳 チン チュホン 鉅宏さん （32歳） 台湾 新北市出身
- ◆ 紀 キ フンティン 婉恬さん （27歳） 台湾 高雄市出身



地域ケアの先進地「佐久」で質の高い介護を学ぶ 介護福祉士養成校の取り組み

地域包括ケアの先進地「佐久」で福祉人材の育成を行っている佐久大学信州短期大学部では、現在 2 名の外国人留学生を受け入れています。同大学は介護福祉士養成校として、これまでにマレーシア・中国・台湾・スリランカといった国々から介護を学びたい留学生を受け入れてきました。そのほとんどが入国前に自国の大学で日本語学科を履修していたり、長年独学で勉強するなどして、日本語力を身に付けてきた学生であり、日本人学生と同様のカリキュラムの中でも、スムーズに学ぶことができているようです。また、一度社会に出てから学び直しのために大学に戻ってくる学生も少なくはなく、もとの勉強に対する意欲の高さが日本人学生との大きな違いといえます。

令和 2 年 4 月から就学している陳さんと紀さんもそうした一人です。彼らは同年 3 月に入国し、これまで介護や日本語の勉強を続けてきました。分からないことがあれば教科担任に積極的に質問したり、授業終了後も学校に残って学習するなど学習意欲がとて高く、卒業時に成績上位者に与えられる「日本介護福祉士養成施設協会会長賞」を受賞するほどでした。2 人はこの春同大学を卒業し、社会福祉法人望月悠玄福祉会「特別養護老人ホーム結いの家」に就職が内定しています。

介護現場に留学生を受け入れるメリットについて同大学廣橋雅子准教授は「留学生は専門性が高いだけでなく、日本語力も高いことが大きなメリットです。まだ十分とはいえませんが、卒業時には少なくとも N2 以上のレベルに達していますし、何よりも国家資格があることが強みです。それはやはり現場で働く上では大きいと思います」と話します。

介護福祉士資格取得にむけては「介護を必要とする利用者に対する基本的な介護を提供する能力」が求められるほか、幅広い教養やコミュニケーション力、人への配慮など人間力を養う必要があります。留学生については、その他にも日本語の授業や日本文化・マナー、しきたりなどを学ぶ「日本事情」といった科目もあり、日本の介護現場で円滑に働くためのカリキュラムも用意されています。また同大学ではその他にも「就学基礎」として社会人になるための基礎知識や日本語の使い方なども指導している他、留学にあたり資金が十分でない学生に対する学費の減免制度があるなど、さまざまな学生の学びを支援しています。

要介護高齢者の増加に伴い、今後介護職の需要はますます高まっていくものと推測されています。同大学では外国人留学生の育成に関して「外国人介護人材は今や各国で人材確保の競争が起きるほど、世界中から注目を集めています。私達としては少数でも日本の質の高い介護技術を身に付け、いずれは自国の発展のために役立てられるような人材育成に取り組んでいきたい」と話します。

台湾と日本の介護事情 お二人に聞きました！

陳さん：台湾には日本のような介護保険制度はないので、台湾人にとって介護という「リハビリに通うこと」と考える人が多いです。また、台湾では専門的な知識や技術がないままケアに当たる人も多く、日本のような専門職人材の育成が今後必要になってくると思います。誰でもできる仕事と思われがちですが、日本に来てその専門性を理解することができました。例えば入浴介助についてですが、台湾では作業効率重視のシャワー浴のみでさっと体を拭いて終わりという施設が多いです。日本は浴槽につかることで体が温まるだけでなく、リラックスもできる大事な時間だということを学びました。体温の上がりにくい高齢者にとって日本のような入浴方法はとてもいいと思いました。

紀さん：台湾の介護は介護する人の視点から介護をしていて、高齢者の立場に立った介護が少ないように感じていました。日本は利用者本位の介護サービスをしていることをアルバイト先で体験しました。そして本当の自立支援とはどういったことなのかも学ぶことができました。

留学生へのサポート

陳さんと紀さんは、介護の勉強の傍ら、週末は「特別養護老人ホーム結いの家」においてアルバイトをしています。



学業に専念できるよう、あらゆる面でサポートしていただいた法人、事業所、大学のおかげで生活には困ることなく無事に卒業を迎えられました。アルバイト先では介護の実践を学ぶことができ、机上の勉強だけでは学ぶことのできない経験ができました。
(紀さん)

受け入れについて

メッセージ・アドバイス

学校と施設とが共に手を取り合い、留学生のための学びや雇用・教育面において、さらによりよい環境を作り上げていきたいと思っています。現在、在学中の学生へ奨学金を出している施設がいくつかありますが、留学生へもそうした支援が広がることを願っています。また、留学生だけでなく、技能実習生や特定技能で来ている外国人材の指導に関しても、私たち教育機関がサポートできることがあれば協力していきたいと考えています。

(福祉学科／社会連携・研究支援センター国際交流部門：廣橋雅子准教授・部門長)

実施事業

介護老人保健施設
特別養護老人ホーム
地域密着型特別養護老人ホーム
グループホーム
短期入所生活介護
短期入所療養介護
通所介護
通所リハビリテーション
佐久平・浅間地域包括支援センター
(佐久市委託事業)

社会福祉法人 佐久平福祉会
〒385-0021
長野県佐久市長土呂 158-1
TEL : 0267-66-7010
FAX : 0267-66-7011
URL : <http://www.skdf.jp/>

外国人介護人材確保 法人のこれまでの取り組み

社会福祉法人佐久平福祉会は長野県佐久市の浅間山の麓に広がる自然に囲まれた地域に本部を置き、「愛の郷」の愛称で入所生活介護・通所介護事業の他、佐久平・浅間地域包括支援センター(佐久市委託業務)を運営する社会福祉法人です。

わが国において毎年要介護者が増加しこれに伴う、介護従事者は 2025 年度までに全国で 245 万人と推計されており、当法人においても人材確保は喫緊の課題でした。そのような中で、当法人では今後日本人の介護人材だけでは立ちいかなくなるだろうと考え、平成 27 年 4 月頃から外国人介護人材の確保に向けて検討を始めました。

受入れを進める中では、様々な課題がありました。まず、日本語能力についてです。介護職種は、対人サービスを提供する職種であり、外国人が介護職員として働くためには、利用者様への説明や同意、利用者様の意思確認等、日本語でコミュニケーションをとることが求められます。そのため、採用において日本語の語学力が重要になるのですが、現地における採用面接は、就労希望者が日本語の学習を始める前に行われることが多いため、語学力を基準にした採用ができないといった課題がありました。さらに、採用が決まってからも、現地で日本語教育を行い、入国要件の※N4 を取得して入国するまでに順調に進んでも約 1 年は要します。その間に家庭や健康上の理由から辞退せざるを得ない方もいて、1 年先の人材採用計画を厳密に決定、遂行することの難しさを感じるとともに、ある程度柔軟な人員配置が求められると感じました。

次に、入国後の支援についてです。日本で生活するためには、通勤や日常生活のアクセスがよく、また適当な家賃のアパートを探す他に、生活用品を一通り揃えなければなりません。また就労開始後も継続的に日常生活の相談支援が必要になります。その労力や経費は決して小さくはありませんでした。それでも、目をキラキラさせて、日本で働きたいと言っている若者の顔を見ていると、不安よりも、期待のほうが大きく、彼らと一緒に働ける場を作っていきたい、いかなければと感じ、試行錯誤を重ね、受入れへの準備を進めてきました。

受入れを開始したのは令和元年 5 月のことです。介護老人保健施設愛の郷において、佐久市内で初めての介護技能実習生の受入れを開始しました。気持ちの良い挨拶や素直で熱心に学ぶ姿勢は、周囲のスタッフからも好感をもたれていて、施設において即戦力として活躍しています。同年 9 月には特別養護老人ホーム佐久平愛の郷において 4 名、12 月には特別養護老人ホーム佐久穂愛の郷に 2 名の介護技能実習生を受入れました。令和 4 年 3 月現在当法人では、9 名の介護技能実習生が活躍しています。今後は継続的な就労に向けて、技能実習 2 号から特定技能への移行を進め、外国人指導者クラスの人材育成を目指していきたいと考えています。

外国人介護職員の受入れは、上述の通り、様々な苦労がありましたが、それ以上に現場の職員は積極的に指導・育成に取り組み、得るものも少なくはありませんでした。外国人とのコミュニケーションや異文化に触れることは、新鮮な経験でしたし、また日本という異国の環境の中で、介護や日本語を覚えようと努力し成長している実習生の姿をみて、日本人職員側が良い刺激を受け、仕事へのモチベーションを高め、介護の質の向上にも繋がったように思います。

外国人介護職員の受け入れ状況
(令和4年3月現在)

技能実習生：9名

定住者：4名

佐久市・小諸市内の介護事業所に就
業する外国人介護職員数：8名

今後ますます日本社会のグローバル化が進んでいくことは必至であり、外国人との共生社会は当たり前になっていくと考えられます。介護分野でも監理団体などの支援者や行政、事業者団体等の支援を受けながら、外国人介護職員を積極的に受入れ、育成していく法人・事業者が増えていくことを期待しています。(技能実習責任者：岩澤 純)

※日本語能力試験(JLPT)にはN1～N5までのレベルがあり、最も優しいレベルはN5であり、N1に行くほど難しくなります。そのうちN4とは基本的な日本語を理解することができるレベルを指します。

N1	幅広い場面で使われる日本語を理解することができる
N2	日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N3	日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる
N4	基本的な日本語を理解することができる
N5	基本的な日本語をある程度理解することができる

外国人介護人材の雇用にあたり法人で行った取り組みや支援内容など

- 現地に数回渡航し採用面接を実施・学習の様子の確認、内定者との懇親会の実施
- インターネットビデオ通話による採用面接の実施
- 事業所徒歩圏内のアパート探し。契約や生活用品全般の用意
- 体調不良の際の同行受診
- 受入れ時の法人・事業所での歓迎会や実習生同士の交流会の開催
- 各現場でのチューター職員による個別教育支援体制づくり
- 実習責任者、実習指導者、生活相談員、チューターによる定期的な情報共有や話し合いの実施
- 技能実習評価試験対策としての技術指導
- 福祉・介護のつばと事業「日本語教室」への送迎・勤務調整
- 日本語能力試験会場への送迎・勤務調整 他



春節祝いのバインチュン作り



外国人介護人材確保

法人のこれまでの取り組み

エフビー介護サービス株式会社は、長野県佐久市に本部を置き、現在、長野・群馬・栃木・新潟・埼玉において、福祉用具事業をはじめ、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービス、訪問介護、訪問看護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支給、給食サービス、海外事業などの多岐にわたる介護事業を運営しています。

現在、弊社ではSDGsに取り組んでおりますが、多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できるダイバシティ整備に注力し、平成28年4月頃から外国人介護人材の受入れについて本格的に検討を始めました。

受入れを進める中では、受入れ先となる介護事業所において、日本語が十分でない外国人介護職員と、ご利用者様、職員とが、円滑にコミュニケーションを図れるかどうか、日本人職員側が異文化を理解できるかどうかといった不安がありました。また、暑い国から来訪される外国人介護人材が、佐久の気候に合うかどうかや日本国内で蔓延する悪い外国人ネットワークに関りを持ってしまわないかといった様々な懸念もありましたが、質の高い介護を安定、継続供給していくためには、グローバルな展開が欠かせませんでした。

平成28年、長野県内にて実績豊富な監理組合等の支援を得て、ベトナムにおける現地調査を実施。平成30年より現地面接を行いました。採用にあたっては、母国語に翻訳した事業所概要やパンフレット、動画などを作成するなどをし、令和元年9月、小規模多機能あったかほ一む中込において当社としては初めての技能実習生を受入れました。さらに同年2月には、ベトナム現地にエフビー介護サービスの介護事業部職員が講師として渡航し、介護技能実習生候補者に対し介護教育を実施しました。受入れ人数は徐々に増え、現在、当社では28名の外国人介護職員が活躍しています。



今後の受入れについては、ベトナムやフィリピンの他にネパール、ミャンマー、カンボジア、モンゴル等の国々へも幅を広げるとともにSDGS活動へも積極的に貢献していきたいと考えています。

外国人介護人材確保における最大のメリットは超少子高齢化社会の日本国内において若い人材の確保ができることです。若い彼らが介護事業所に配属されることにより、現場の雰囲気は良くなり、明るい外国人職員が潤滑油となり日本人職員がより明るい気持ちで

実施事業

- 有料老人ホーム／グループホーム
- 小規模多機能型居宅介護
- 障害者相談支援
- 居宅介護支援
- 通所介護／訪問介護／訪問看護
- 総合事業訪問型サービス A
- 福祉用具貸与／販売
- 住宅改修
- フード事業
- 調剤薬局事業
- 海外事業

エフビー介護サービス株式会社

〒385-0021

長野県佐久長土呂 159-2

TEL : 0267-88-8188

FAX : 0267-65-8809

URL : <https://fb-kaigo.co.jp/>

外国人介護職員の受け入れ状況 (令和4年3月現在)

技能実習生： 24名

特定技能： 4名

佐久市・小諸市内の介護事業所に就
業する外国人介護職員数： 3名

働くことができるばかりでなく、その国特有の文化を学び、知識や技術などを取り入れることができ、企業文化や技術、事業領域が発展する可能性もあります。

一方で、文化や習慣の違いから思わぬトラブルが発生する可能性もないとは言いきれません。外国人介護人材の受入れにおいては、文化の違いを正しく理解し、自分の価値観を押しつけることなく、柔軟に、そして相手を尊重することが大切です。決して安価に雇用でき、労働環境が多少悪くても、働いてもらえる労働力とした誤った認識を持たぬよう、正しい理解が広がることを願っています。当社では今後も外国人介護人材とともにいきいきとした明るい介護現場を作っていきたいと思っています。(海外人材開発課課長 臼田 隆洋)



外国人介護人材を雇用するにあたり法人で行った取り組みや支援内容など

- 外国人介護人材採用のため、母国語に翻訳した事業所概要、パンフレット、動画の作成。
- 平成31年(2019年)2月ベトナム現地に当社の介護事業部職員が講師として渡航、介護技能実習生候補者に対し介護教育を実施。
- 当社以外の外国人材も受入れ、初任者講習を実施。当社に関しては令和2年度より5名が取得。令和4年度からは、実務者研修を15名が受講予定。
- 福祉・介護のつばさ事業の協力を得て日本語学習の支援を実施。
- コロナ禍以前に、長野県内配属の技能実習生全員を集め激励懇親会を実施。
- 長野県介護福祉士会主催の介護研修への参加支援。
- 技能実習生の生活必需品(冷蔵庫・洗濯機・テレビ・電子レンジ・生活雑貨・布団・毛布・冬服等)を揃えるため、全社員へお願いし、不要品の寄付活動を実施。
- 特定技能外国人(介護)の受入れにあたり、当社独自の教育カリキュラムにより教育を実施。



※長野県介護福祉士会主催の介護研修

のぞみ グループ

株式会社エスポワール
社会福祉法人のぞみ福祉会
株式会社シルバーケアのぞみ
株式会社のぞみ
医療法人 清秀会
介護施設協同組合
一般社団法人 海外介護士育成協議会
Nozomi Group Vietnam Co., Ltd.
Nozomi Group Thailand Co., Ltd.

実施事業

有料老人ホーム(住宅型・介護付)
認知症対応型共同生活介護
介護型軽費老人ホーム
小規模多機能型居宅介護
地域密着型特別養護老人ホーム
通所介護/訪問介護/訪問看護
居宅介護支援
自立型サービス付き高齢者向け住宅
内閣府所管 企業主導型保育事業
地域交流スペース・こども食堂
医療/介護技能実習生
温泉施設・エステサロン運営

のぞみグループ本部事務所
〒384-0093
長野県小諸市和田 841-7
TEL : 0267-22-9274
FAX : 0267-26-1637
URL : <https://nozomi-g.co.jp/>

外国人介護人材確保 法人のこれまでの取り組み

長野県小諸市に本部を置くのぞみグループは、薬局事業からスタートし、現在では多岐にわたる介護事業の運営の他、日帰り温泉施設、エステサロンの運営、海外介護士育成事業と、現在医療法人を含めて 9 法人を有するグループです。

全国的に進む人口減少、少子高齢化は佐久地域においても例外ではなく、介護施設を運営する中でじわじわと迫る求人難を肌で感じるようになってきました。さらに 2025 年問題が報道され始め、福祉・介護のニーズは今後さらに高まっていくことが確実である反面、担い手不足が深刻化していくことが見込まれ、このままでは日本の介護が破綻してしまうと危機感を感じていました。そんなとき、たまたま引き受けたタイ・バンコクの日本語学校設立のため、平成 23 年初めてバンコクを訪れました。現地はチャオプラヤー川の氾濫による大洪水により甚大な被害を受けていました。日本も同じ年東日本大震災を経験し、多くの国々から支援があったことも重なり、力になれることがあれば平成 24 年にタイに教育省の許可を得た介護学校を設立し、海外介護士の育成を始めました。ところが、翌年、クーデターが発生。残念ながら介護学校は閉めることに。しかし、こうした経験から外国人材の育成について学ぶきっかけとなりました。当時は技能実習制度に「介護」は含まれていなかったため、現地で教育をしても日本で実践経験ができないといった課題があり、まずは国内の体制を整える必要があると感じ、厚生労働省に「技能実習生に介護を追加してほしい」と働きかけました。

平成 26 年 5 月には、教育を目的とする「一般社団法人 海外介護士育成協議会」を設立。ベトナム・中国・ミャンマー・フィリピンを訪問し、各国の看護学校、送り出し機関、政府と面会を重ねました。翌年 1 月には「介護施設協同組合」を設立。将来の介護技能実習生を受け入れる体制を整えました。

平成 29 年 2 月、内閣官房が進める「国際アジア健康構想協議会」の初回からのメンバーとなり、制度化に向けて加速していきました。同年 11 月、ついに技能実習制度に「介護」が加わることになり、当グループとしては公示にあわせ、中央法規出版から「外国人のためのやさしく学べる介護のことば」「外国人のためのやさしく学べる介護の知識・技術」を出版。今では外国人の介護テキストのスタンダードとなっています。さらに平成 30 年 12 月には「介護施設協同組合」が日本初の介護専門の監理団体として認可が下り、翌年 8 月、ついに日本で初めての介護技能実習生をインドネシアから 19 名受け入れました。

当グループでは、平成 30 年 10 月に社会福祉法人のぞみ福祉会「介護型軽費老人ホームケアハウスのぞみ」において初めての技能実習生を 3 名受け入れました。彼女たちの笑顔やひたむきさ、言葉遣いの美しさは施設を明るく活性化し、ご利用者様からも大変喜ばれています。受け入れ人数は年々増加し、現在は 14 名の外国人介護職員が働いています。令和 3 年 6 月には、介護専門の監理団体では日本初となる「一般監理団体」の許可を受けました。さらに介護における優良要件を満たしたことで当組合が受け入れた介護技能実習生は 5 年間の実習が受けられるようになりました。ケアハウスのぞみの 3 名も、同年 8 月には技能実習 3 号に移行し、翌年 1 月には介護福祉士の国家試験を受験しました。介護技能実習生から介護福祉士誕生に向けて新たな道を切り開くために一生懸命頑張ってくれました。

外国人介護職員の受け入れ状況 (令和4年3月現在)

技能実習生： 11名

特定技能： 3名

佐久市・小諸市内の介護事業所に就
業する外国人介護職員数：14名

外国人介護人材の受入れは新型コロナウイルスの感染拡大や新たな変異株の流行により、新規入国に制限がかかるなどまだまだ厳しい状況が続いています。受入れ準備を進める中では、様々な面でこれまでとは違った課題に直面し、対応に追われる日々を過ごしてきましたが、介護現場に希望を与えてくれる彼女達の力はこれからの日本にとって必要不可欠であり、私達、介護現場の宝です。今後は帰国した介護技能実習生らが日本の自立支援を身につけたトップリダーとして、ベトナムの介護を切り拓き、また新たな技能実習候補生を育てて行くという人材の還流を完成させたいと考えています。そのため、ベトナムにおける JICA 事業により、帰国後の介護技能実習生の受け皿を整えていくとともに、特定技能介護への教育も取り組んでいきたいと考えています。(代表：甘利 庸子)

外国人介護人材の雇用にあたり法人で行った取り組みや支援内容など

- 「一般社団法人海外介護士育成協議会」「介護施設協同組合」の集団講習の中で、介護職員初任者研修、普通救命救急、N3合格に向けての日本語教育を行っており、当組合のみならず、他監理団体からの委託も受け、これまでに213名の介護技能実習生と9人の特定技能「介護」を送り出した。
- 配置後の介護技能実習生に対し、N3合格プログラム、介護福祉士国家試験のための介護福祉士受験講座を実施。
- 長野県の委託を受け、初級評価試験対策の講習、受け入れに向けてのセミナー等を開催。
- 入国前の介護導入講習のための Nozomi Method のデジタル教材とテキストを完成させ、海外4か所での商標登録を行い、JETRO のハンズオン支援を受け、各国で展開を始めた。
- ベトナムの介護の確立のための企画が JICA の ODA 事業に採択され、まもなく開始予定。これらにより人材還流の完成を目指している。



実施事業

特別養護老人ホーム

通所介護

短期入所生活介護

居宅介護支援

介護予防短期入所生活介護

社会福祉法人 佐久福寿園

〒385-0022

長野県佐久市岩村田 4213 番地

TEL:0267-68-3055

FAX:0267-68-6635

URL:<http://www.janis.or.jp/users/fukujuen/>

外国人介護人材確保

法人のこれまでの取り組み

佐久福寿園は「自分らしく居られる場所 ～第二の我が家～」をユニット理念に掲げ介護が必要な状態であっても自分らしく過ごせる、そんなサービス提供を目指し、施設入所のほか居宅サービス、居宅介護支援、介護予防サービスと多岐にわたる介護事業を運営する社会福祉法人です。

介護人材不足については、以前から一つの事業所だけの問題ではなく、佐久地域全体の介護の体制に関わる深刻な課題だと危機感を感じていました。当法人ではこうした人材不足への対応に加え、これからの社会のグローバル化や職員教育を見据え、平成 30 年頃から EPA（経済連携協定）に基づく外国人介護福祉士候補者の受入れに向けて具体的に検討を始めました。

受入れに向けて準備を進めていく中で、候補生の多くが関東や関西などの都市部を希望しており、地方への希望者が少ないという実態が分かりました。地方希望者もいないわけではありましたが、給料や生活面などで、より待遇のよいところを希望する候補生が多く、手厚い支援がないと人材を確保することは難しいのではないかなと思うようになりました。そのため、住宅支援や学習時間の確保など、受入れ後のサポート体制について色々と模索してきました。EPA での受入れの場合、日本語の学習に加えて介護福祉士国家試験に向けての学習も必要になります。そのための学習環境や、メンタルヘルスのための候補生同士の交流の場をどのように作ってあげればよいかなど様々な課題について協議してきました。

令和元年 8 月 22 日、インドネシア・ジャカルタにおいて現地合同説明会が開かれ、当法人も 2 名が参加しました。この説明会は受入れ希望機関（施設）が就労希望者に対して受入れ機関の概要や仕事内容等について直接説明することを目的として開催されるもので、当法人では、事業所概要をインドネシア語で作成したパンフレットを活用するなどし、積極的な広報活動を行いました。その後の 2 名の就労希望者とマッチングが成立し、正式に採用が内定しました。

令和 3 年 6 月、新型コロナウイルスの感染拡大を受け予定していた時期よりも遅くなりましたが、無事に 2 名の候補生を受け入れることができました。彼女達のフレッシュさや明るい笑顔、学習意欲の高さは利用者・家族から喜ばれているだけでなく、我々職員にとっても彼女達への教育を通じて業務改善に繋がるきっかけとなりました。いずれは介護福祉士の資格を取得し、日本で就労するという彼女達の夢を叶えるため、当法人としても可能な限りバックアップしていきたいと考えております。また今後の新たな受入れにおいても前向きに取り組んでいきたいと考えております。

外国人介護職員を雇用する方法の一つである EPA に基づく外国人介護福祉士候補者の受け入れは平成 20 年度から始まり、その受入れ人数は年々増加し、現在は全国各地の多くの施設等で活躍しています。上述の通り、受入れにおいては、日本人と同水準の賃金境遇は当然のこととして、住居の確保・生活の支援・学習の支援等が必要となります。こちらに来てくれる候補生の負担をいかに減らせるかが、今後佐久地域に人材を呼べる鍵になるのではないかと考えています。その他にも外国人介護職員が安心して働ける環境づくりも必要です。佐久市では外国人介護職員を支援する生活相談員がおり、候補生にとって、安心できる存在となっている他、母国語で予防接種や健康診断、行政手続きなどをサポートしてもらうなど私達受入れ側にとってもこうした相談窓口があるのは大変心強く感じて

外国人介護職員の受け入れ状況 (令和4年3月現在)

EPAに基づく外国人介護福祉士候補者：2名

定住者：2名

佐久市・小諸市内の介護事業所に就業する外国人介護職員数：4名

います。今後は施設間や教育機関、外国人就労者同士の横のつながりが増えていくことで、さらに安心して働きやすい環境が整っていくことを願っています。(法人代表：和田 裕一)

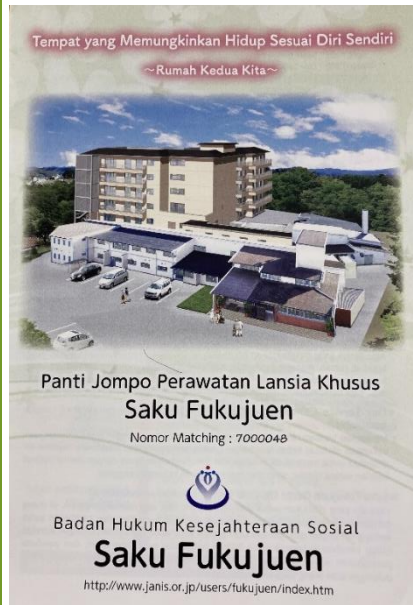
外国人介護人材の雇用にあたり法人で行った取り組みや支援内容など

<EPA 候補生への支援>

- 日本語学習を勤務時間内に毎日1時間以上実施。
- 外部の日本語教室への参加
- iPadを活用し写真や動画、翻訳などで学習を進めている。
- 施設職員との交流と日本語学習を兼ねた施設内食事を開催
- 日本の文化学習のためドライブを企画
- 生活の場の整備（旧棟にシェアハウスのような住まいを完備。アパートを含め住まいの選択が出来るように対応）
- パソコン・自転車の貸与

<定住外国籍職員への支援>

- 業務内容説明を必ず2名の職員で対応（誤解によるチームワークの乱れを防ぐため）
- 日本語理解力に応じた業務マニュアルを個別に作成し、他の職員へも周知させている。



インドネシア語で紹介した事業所パンフレット



実施事業

<医療>

病院・クリニック

訪問看護

訪問リハビリテーション

<健康診断・人間ドック>

ケイジン保健医学センター

<介護>

介護老人保健施設

グループホーム

訪問介護

通所介護

通所リハビリテーション

短期入所療養介護

介護予防訪問看護

介護予防通所リハビリテーション

介護予防短期入所療養介護

居宅介護支援

居宅療養管理指導

中込地域包括支援センター

(佐久市委託事業)

社会医療法人 恵仁会

〒385-0051

長野県佐久市中込 1-17-8

TEL : 0267-64-1700

FAX : 0267-64-1719

URL :

<https://www.keijinnet.or.jp/>

外国人介護人材確保 法人のこれまでの取り組み

社会医療法人恵仁会は、「安心と安全のもと 24 時間の愛情を」という理念のもと、保健・医療・福祉分野において多岐にわたるサービスを展開している他、SDGs への取り組みや地域住民の健康・生活を支える街づくり活動にも積極的に取り組んでいる社会医療法人です。

介護分野においては、高齢化に伴う必要な介護従事者数の増加、少子化による労働人口の減少を背景として、慢性的な人手不足に悩まされてきました。特に、介護保険制度発足後 10 年が経過した頃より、県内の介護福祉士養成校では定員割れが始まり、徐々に介護職を希望する新卒者の減少が見られるようになってきました。こうした傾向は全国的にも見られ、老健大会等では、地方の若者の都市部への進学・就職により新規の人材確保が困難になってきているとの報告がありました。そのうちの一つである四国・中国地方の特別養護老人ホームや介護老人保健施設においては、深刻な状況から外国人介護職員の雇用を開始したといった事例発表もありました。近い将来、長野県内においても今以上に介護職員の確保が困難になることが予想され、当法人では平成 23 年 11 月頃から EPA(経済連携協定)に基づく外国人介護福祉士候補者の採用に向けて試験的に取り組むことにしました。

受け入れ準備を進める中で課題となったのは、候補生の移動手段です。この地域は都市部と違って公共交通網が整っていないため、移動は主に徒歩か自転車になります。それらの手段で通勤や生活の利便性などを考慮しながら、勤務先や居住先を選定する必要がありました。徒歩や自転車の代わりに自動車やバイクの運転免許取得などの選択肢もありましたが、購入資金をどうするかといった課題もあり現実的には困難でした。

様々な条件を鑑みて、平成 24 年 11 月、介護老人保健施設シルバーポートつかばらにおいてインドネシアから 2 名の候補生を受け入れることになりました。ホスピタリティが高く勤勉で介護福祉士国家試験に合格するなどとても優秀でしたが、それぞれ母国で叶えたい夢や目標があり帰国することになりました。当法人にとっては初めての試みでしたが、この受け入れから多くを得る機会となり、平成 29 年には介護老人保健施設安寿苑において 2 名の候補生を、令和 3 年 6 月にはさらに 2 名の候補生を受け入れることができました。2 期生にとっては、同国の先輩介護士がいることで心強さが得られ、1 期生にとっても後輩の育成に関わることで、スキルアップにつながるなど好循環が生まれています。

異なる文化・価値観を持った外国人介護職員がいることは、介護現場に多様性が生まれ、日本人職員や利用者にとって良い刺激となっています。今後の新たな人材の受け入れについては、現在勤務している候補生を通じて、毎回、母国の学校から紹介があるため、そうした繋がりを活かし継続的に受け入れていきたいと考えています。そして将来的には日本に永住してもらい、各施設のリーダー的な存在になってもらいたいと期待しています。

(本部総務課 課長：土屋利樹)

外国人介護職員の受け入れ状況
(令和4年3月現在)

EPAに基づく外国人介護福祉士候補者：3名

佐久市・小諸市内の介護事業所に
就業する外国人介護職員数：3名

外国人介護人材の雇用にあたり法人で行った取り組みや支援内容など

- 介護の基礎・実技を取得するため、施設所属の各専門職（介護福祉士、看護師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士等）の指導による、テキストを使用した学習とOJTでの学習
- DVDによる介護技術・コミュニケーション技術の学習会や施設内学習会を実施
- 日本語能力の継続的向上を図るため、外部講師による日本語教室を実施
- 実務者研修、日本語能力試験（JLPT、JFT-Basic）等における各試験のサポート、補助
- 家賃補助、WIFI環境の整備



外国人介護人材確保 法人のこれまでの取り組み

社会福祉法人望月悠玄福祉会は、中山道の宿場町（望月宿）として栄え、今でも当時の面影を残した家並や風景が残る佐久市望月に本部を置く社会福祉法人です。その人らしいあたり前の暮らしを目指して、地域の皆様の生活に寄り添った介護・福祉事業を展開しています。

古き良き歴史と趣きを持つエリアですが、近年は介護職を希望する新卒者が減少し、介護人材不足に悩まされてきました。少子高齢化に伴い、介護職員の確保は今後もますます厳しくなることが予想され、外国人介護職員採用へも視野を広げ、受入れに向けて積極的に検討を始めました。

転機となったのは平成 30 年 9 月。長野市で行われた技能実習生受入れセミナーの参加を機に、のちの当法人の監理団体となる共同組合中央経友会と知り合い、そこで、県内で活躍しているインドネシア人介護士の活躍を耳にしました。さらに令和元年 5 月には、同団体の紹介で、インドネシア人技能実習生を受け入れている社会福祉法人れんげ福祉会「特別養護老人ホーム銀松苑」（大町市）へ視察に行くことになりました。同施設は早くから外国人介護職員の受入れを開始し、多様な人材が活躍できる環境整備に取り組みされており、実際にいきいきと活躍する技能実習生の姿を目にすることができました。こうしたきっかけから具体的に技能実習生の受け入れに向けて推進していくことを決めました。

令和元年 8 月 26 日～31 日には、インドネシア・バンドンに行き、日本語学校の視察のほか、就労希望者と採用面接を行い、2 名の技能実習生の採用を決めました。インドネシアは、日本のような介護施設ではなく、国営化された養老院という施設がありましたが、入居者の生活状況や身体状況は様々で日本の介護現場とはずいぶん違った印象を持ちました。

受入れを開始したのは令和 2 年 3 月のことです。当時は国内において新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染拡大防止のため新規入国に制限がかかるなどの動きが見られ始めていたころでした。2 名の実習生は、入国制限がかかる前の 3 月 23 日に入国し、千葉県研修センターで 1 か月間の研修期間を経て、同年 5 月より、デイサービスセンター布施屋と短期入所生活介護施設布施屋において就労を開始しました。2 人の周りはいつも明るい笑い声が響き、施設内に活気をもたらしています。ホスピタリティの高さは利用者からとても喜ばれ、今では欠かせぬ存在になるまでに成長しています。

また、当法人では技能実習生だけではなく外国人留学生の受入れも積極的に行ってきました。現在、佐久大学に通う台湾出身の 2 名の学生は、介護の勉強の傍ら、週末は特別養護老人ホーム結いの家においてアルバイトをしています。当法人では、安心して学習に励み、また円滑に就労に繋がるよう留学生への支援として、法人独自の奨学金の他に長野県社会福祉事業団の奨学金も併用し、大学進学を支援しました。また、アルバイトにおいても移動手段のない彼らのために、住まいと事業所間を送迎するなどのサポートも行いました。彼らは今春、大学を卒業し同施設において正式に介護職員として就労する予定です。また、来年度は新たに 3 名の技能実習生の受け入れも予定しており、今後も積極的に外国人介護職員を受け入れていきたいと考えています。（法人本部事務長：門間 孝之）

実施事業

訪問介護

通所介護

短期入所生活介護

認知症対応型通所介護

居宅介護支援

介護予防短期入所生活介護

介護予防認知症対応型通所介護

特別養護老人ホーム

軽費老人ホーム

佐久市高齢者生活支援ハウス

障がい者就労支援 B 型事業所

社会福祉法人 望月悠玄福祉会

〒384-2203

長野県佐久市布施 769-1

TEL : 0267-78-5131

FAX : 0267-78-5132

URL : <http://www.yuugen-fukushikai.com/>

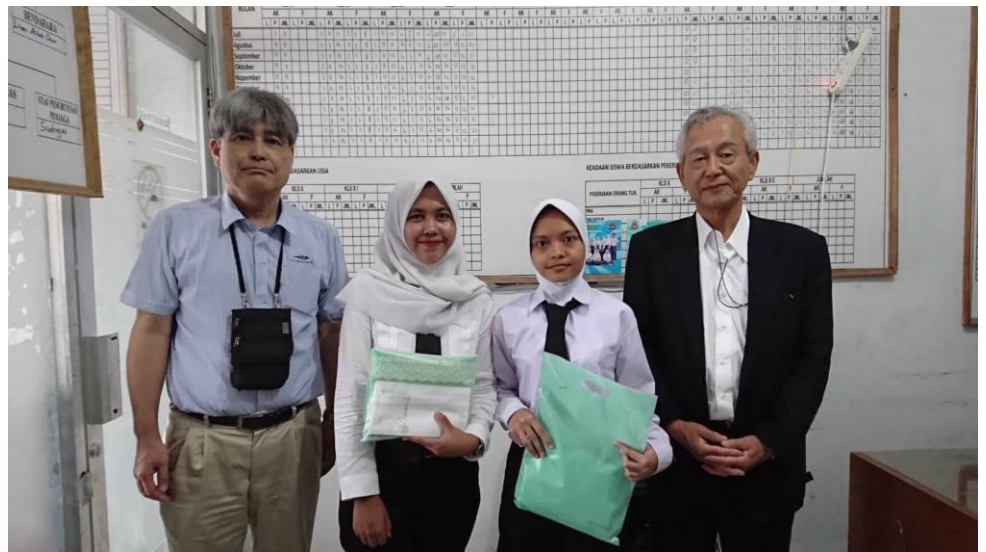
外国人介護職員の受け入れ状況
(令和4年3月現在)

技能実習生：2名

佐久市・小諸市内の介護事業所に
就業する外国人介護職員数：2名

外国人介護人材の雇用にあたり法人で行った取り組みや支援内容など

- 福祉・介護のつばさ事業「日本語教室」への送迎・勤務調整
- インターネットビデオ通話による採用面接の実施
- 社宅の提供。契約や生活用品全般の用意
- 技能実習評価試験対策としての技術指導
- 日本語能力試験会場への送迎・勤務調整 他



インドネシア・バンドンにて 日本語学校の様子

外国人介護職員の受入れに関する相談先

制度	相談内容	相談先	電話番号	HP
EPA	EPAに基づく外国人介護福祉士候補者の雇用	JICWELS（公益社団法人 国際厚生事業団）受入支援部	03-6206-1138	
介護	介護福祉士を目指す留学生に関するあらゆる相談	公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 介護福祉士を目指す留学生のための相談支援センター	0120-07-8505	
技能実習	技能実習制度の技能実習生の雇用	OTIT（外国人技能実習機構）コールセンター	03-3453-8000	
		JITCO（公益財団法人 国際人材協力機構）実習支援部相談課	03-4306-1160	
特定技能	在留資格「特定技能 1号」をもつ外国人の雇用については、「地方出入国在留管理局」または「地方出入国在留管理局支局」にお問い合わせください。			

参考資料出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 平成30年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の受入環境の整備に向けた調査研究事業」外国人介護職員の雇用に関する介護事業者向けガイドブック

長野県外国人材受入企業サポートセンター

長野県行政書士会が長野県の委託を受けて、県内企業・団体の皆さまからの外国人材受入に関するご相談に対応するために設置されました。「技能実習生を受け入れるにはどうしたらいいのだろうか」「特定技能ってどんな資格？」などお気軽にご相談ください。専門的知識を持った相談員（申請取次行政書士）が対応いたします。来所相談・電話相談のほか、出張相談も承ります。

電話：026-217-1471 /FAX：026-217-1472

MAIL：nagano-gsc@aroma.ocn.ne.jp URL：https://nagano-gaisapo.org

長野県長野市大字南長野南県町 1009-3 長野県行政書士会館内

相談時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）9：00～16：00

（事前予約制）相談無料・秘密厳守



長野県内の企業・団体の皆さまの
**外国人材の受け入れに関する
疑問・質問にお答えします！**

たとえば・・・

- 外国人も雇用できる企業があるのだろうか？
- 外国人雇用を支援する企業はあるだろうか？
- 外国人雇用を支援する企業はありますか？
- 外国人材の受け入れにはどうすればいいのだろうか？
- 新しい「特定技能」ってどんな資格？
- 新卒は3年以内のスキルの新卒に該当する企業はありますか？

こんなときは、まずはお気軽にご相談ください
専門的知識を持った相談員（申請取次行政書士）が対応いたします
来所相談、電話相談のほか、出張相談も承ります

※毎月1期13日
開所！

長野県外国人材受入企業サポートセンター
電話 026-217-1471 FAX 026-217-1472
メール nagano-gsc@aroma.ocn.ne.jp
長野県長野市大字南長野南県町1009-3 長野県行政書士会館内
相談時間 月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除く）
9：00～16：00（事前予約制）
相談無料・秘密厳守

長野県の外国人介護人材の受入れに関する補助事業等

外国人介護人材受入支援事業

外国人介護人材が国内の介護現場において円滑に就労・定着できるよう、民間団体が実施する当該外国人介護人材の介護技能を向上するための集合研修に要する経費の助成を行っています。

外国人介護福祉士候補者受入施設学習支援事業

EPAに基づき入国する外国人介護福祉士候補者が円滑に就労できるように、候補者を受け入れた施設における日本語学習及び介護分野の専門学習の経費の助成を行っています。

長野県外国人介護人材住宅借上支援事業

外国人介護人材の受入施設による、住居借上に必要な経費を支援しています。

外国人留学生奨学金等支給支援事業

介護分野の外国人留学生に対して、留学生の就労予定先の介護サービス事業者が、留学生に対して貸与する奨学金に係る費用を支援しています。

詳細につきましては、長野県ホームページもしくは下記までお問合せください。

▶長野県健康福祉部 介護支援課 介護人材係

電話：026-235-7129（直通）

FAX：026-235-7394

Email：kaigo-jinzai@pref.nagano.lg.jp

佐久市では、外国人介護職員の生活相談を実施しております。

佐久市では、タイ・ベトナム・インドネシアなどの母国語を話せる生活相談員を配置し、雇用されている外国人介護職員の生活面の困りごとや、健康相談などに応じています。また、外国人介護職員と共に働く上での悩みなどの相談にも応じています。事業所訪問による個別相談も実施しておりますので、お気軽にご相談ください。

▶佐久市高齢者福祉課 介護保険事業係（外国人介護職員相談窓口）

電話：0267-62-3154

FAX：0267-63-0241

Email：koureisya@city.saku.nagano.jp

令和3年度 福祉・介護のつばさ事業

佐久市・小諸市 外国人介護職員の活躍事例集（令和4年3月発行）



佐久市 福祉部 高齢者福祉課
〒385-8501
佐久市中込 3056
TEL : 0267-62-2111 (代表)
FAX : 0267-63-1680 (総務部)

小諸市 保健福祉部 高齢福祉課
〒384-8501
小諸市相生町 3丁目3番3号
TEL : 0267-22-1700 (代表)
FAX : 0267-23-8766 (代表)